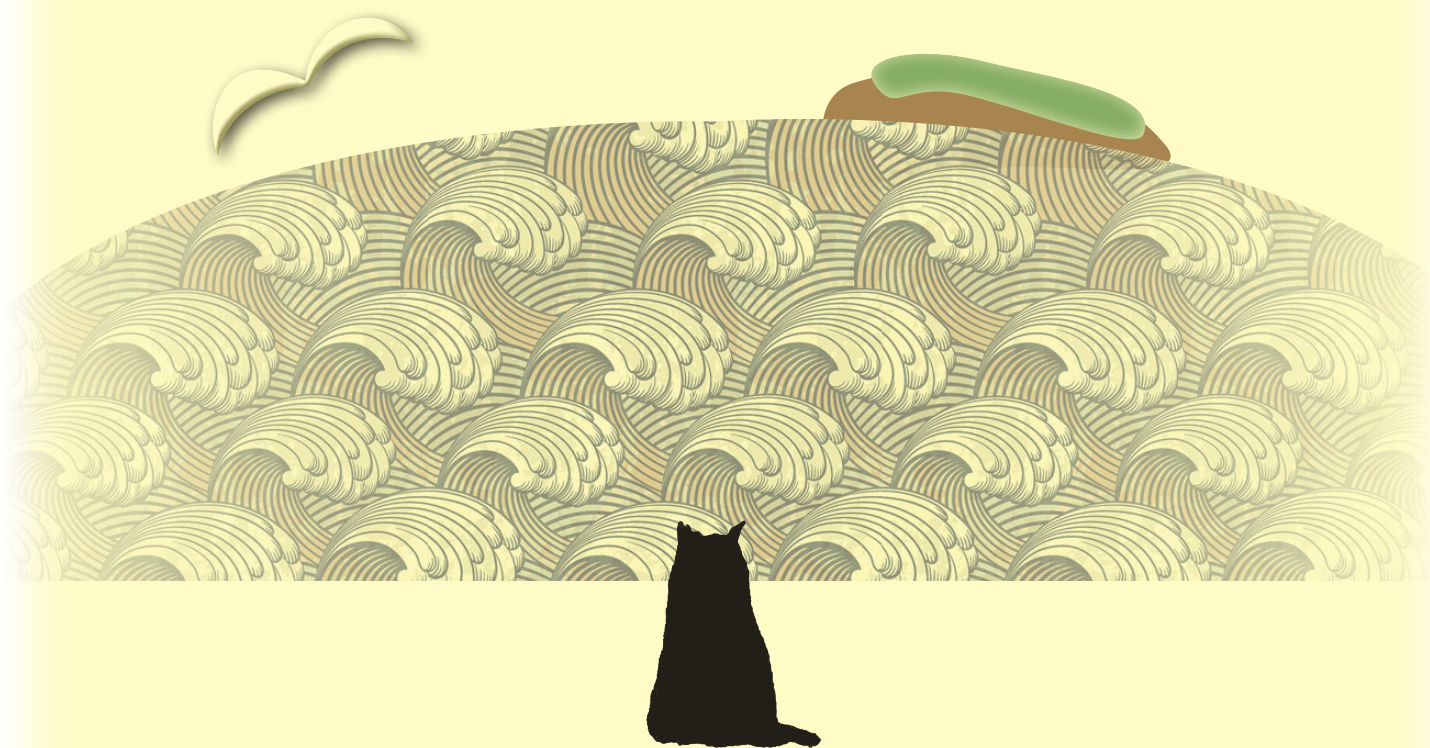


生態系 カズクニ

- 2017 -



作・泊 篤志

これは

ぼうかずり
棒ヶ削という九州の片田舎の

ばくやま
麦山家という一族と

彼らを取り囲むケモノたちの

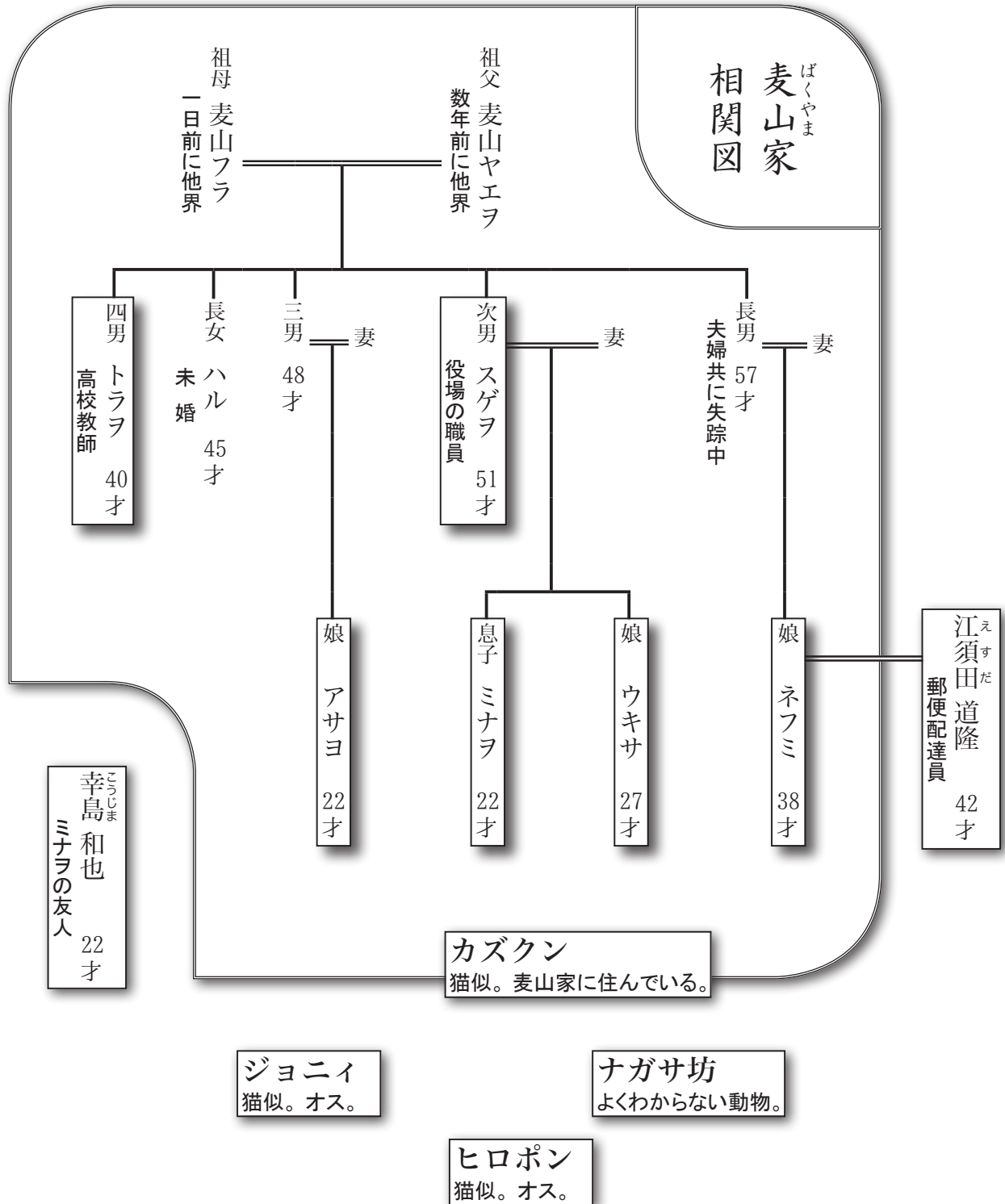
一瞬の物語である



登場人物

- スゲヲ (51才)
- トラヲ (40才)
- ウキサ (27才)
- ミナヲ (22才)
- アサヨ (22才)
- ネフミ (38才)
- 江須田 道隆 (42才)
- 幸島 和也 (22才)
- 動物たち
- カズクン (猫似 ♀)
- ジヨニイ (猫似 ♂)
- ヒロポン (猫似 ♂)
- ナガサ坊 (不明)

相関図
麦山家
ばくやま



離れ、の様な十二畳ほどの和室。
二階に小さい部屋があるが、雑然と物が置かれ、物置部屋のようだ。

波の音が薄つすら聞こえていて、海に近いことが想像される。

部屋を取り囲むように動物たち（カズクン、ヒロポン、ジョニイ、ナガサ坊）が現れ、動物界での物語が（ほぼ無言で）繰り広げられる。
カズクンとヒロポンは老夫婦のような雰囲気だが、そこにジョニイが割って入る。

カズクンはジョニイを追い返す。

ジョニイはヒロポンを追い払おうとする。

ナガサ坊は両者を行ったり来たりしながら、それぞれなためようとしている。

やがて、棺桶を運ぶスゲヲとミナヲの姿が見え。

カズクンを除く動物たちは、じんわりと立ち去っていく。

スゲヲとミナヲが棺桶と共に部屋へ。

その後ろからアサヨとウキサが入ってくる。

スゲヲ よかや。

ミナヲ よかよ。

アサヨ 何かしましょうか？

スゲヲ いや、かえって危なか。

ミナヲ 大丈夫で。

スゲヲ アサちゃん。

アサヨ はい。（カズクンに）カズクン。

アサヨ、部屋の真ん中に座っているカズクンを追い払う。
カズクン、面倒くさそうにゆっくり場を明け渡す。

スゲヲ なら、ここら辺に…、よかか、降ろすぞ。

ミナヲ はい、よかよ。

スゲヲ よ、いーしよっと。

2人、棺桶を部屋の中央に降ろす。

ミナヲ めっちゃ重かねー。

スゲヲ あがん軽そうやったとにね。

四人、自然と手を合わす。

スゲヲ ばってん、まいったなー

ミナヲ こがんと、あると？

スゲヲ ああ。

ミナヲ うそやろー。

スゲヲ 仕方なかやろーが。

ミナヲ ただでさえ重かるとに。

アサヨ ミナヲちゃん！（不謹慎な！）

カズクン どしたん？

ウキサ 婆ちゃんのね、おらんごとになったとよ。

カズクン どこ行つたん？

ウキサ さあ…。

カズクン、棺桶の上に乗ろうとして。

スゲヲ カズ！何しよっとか！

カズクン うー。

スゲヲ ウーじゃなか、降りてきなさい。

カズクン、降りる。

ミナヲ （棺桶に向かって）バーちゃんん、どこ行つとつとー？

アサヨ 言うたつて、おらんとやっけん。

ミナヲ だいたいさあ、チムナアン抜けてしもた、とか言うばってんチムナ

アてなん？

スゲヲ チムナアは…そんな人そのものば指す言葉たい。わいは、爺ちゃん時
ん事ば、覚えとらんとか。

ミナヲ 覚えとらんよ。

アサヨ 言いよつたやろ、爺ちゃんのチムナアんどつか行つてしもーたーとか。

ミナヲ ああ…。

カズクン 何かご飯ない？

スゲヲ 何か、どがんかしたとか？ ん？（とカズクンを撫でる）

カズクン ゴハン…。

スゲヲ そーかそーか、寂しかとか。

ウキサ、カズクンのゴハンを取りに行く。

ミナヲ、カズクンの頭を遠慮なしに撫でる。

ミナヲ よかねー、お前は^{ツイ}。

カズクン、困ったような顔でされるがまま。

アサヨ ちよつと痩せた？

ミナヲ 夏やけんね。

アサヨ ん？

ミナヲ 夏は、少し、毛の減るけん。

アサヨ ふーん。

ウキサ （手に食べ物の入った皿を持って戻り）カズクン、たらいま。

カズクン おお！ありがとさーん。

ウキサとカズクン、ニヤーツと笑う。

ミナヲ なんかわい、姉ちゃんの方が愛想よかやつか、（攻撃）おお？

カズクン お！

ミナヲ お！やるか！

カズクン おりゃ！

カズクンの攻撃は空振りし、やり場のない手で頭を搔く。

ミナヲ なんか、終わりか？ほれ（攻撃）。

カズクン、手を出しかけてやめる。

カズクン ウキたたーん。

ウキサ いじめられたと？

カズクン うん。

ウキサ ミナヲちゃんもね、かまって欲しかとよ（ナデナデ）。

ミナヲ かまって欲しゆうはななかよ。

アサヨ かまって欲しかくせに。

ミナヲ は？

スゲヲ ミナヲ、ここちよつと頼むけんな。

アサヨ・ミナヲ ええ？

スゲヲ アサちゃんもぞ。

アサヨ はあ…。

ミナヲ 3人で？

スゲヲ カズも入れたら4人やろが。

ミナヲ いやいやいや、そいはなかつちやない？

スゲヲ 誰か見とかなつまらんやろうが。

アサヨ ばってん、どがんなるか分からんし。

スゲヲ アサヨちゃんなら大丈夫で。

ミナヲ ちよお、オヤジ！何ば適当なことば言いよつとね。

スゲヲ 何も起きんて、静かなもんじやなかね。

アサヨ スゲおいちゃん…。

スゲヲ、去る。

ミナヲ どがんする？

アサヨ あー、うん。

アサヨ、2階の物置部屋へ移動。

ミナヲ なん？

ミナヲ、付いて行く。

(2階)

アサヨ 雰囲気を変える。

ミナヲ ねて。

アサヨ 何？

ミナヲ かまって欲しかて何？

アサヨ …別に。

ミナヲ そいじゃ分らんやろ。

アサヨ そがん言うてん、適当に口から出たっちゃんもん。

ミナヲ 何そい。

アサヨ …知らん(座る)。

ミナヲ ……。

ミナヲ、アサヨを後ろから腕を回し、軽く抱きしめようとす。

アサヨ ちよつとやめて。

ミナヲ 何で。

アサヨ 婆ちゃんの見とるけん。

ミナヲ え？…(やめる)…うん。

カズクン あの娘、誰やったっけ？
ウキサ アサヨちゃん、イトコン娘
カズクン ふうん

アサヨ こい、何？(アニメ柄な布を見つける)

ウキサ カズクン、ラーちゃんに似とるよね。

カズクン 似とらんよ。

ウキサ そーお？

カズクン アタシはね、ミミパキンさんに似とるの。

ウキサ ミミパキン？

カズクン サクラ鳥のミミパキンさん。

ウキサ うそやろ。

アサヨ ちよ、ここ持つて。

アサヨ、ミナヲに手伝わせて棺桶にカーテンを(テーブルクロスのように)かける。

アサヨ よし。

ミナヲ あー、うん、よか感じ。

ウキサ いい感じ。

アサヨ そんなら、後はミナヲちゃんに頼んだけん！

アサヨ、2階へ移動。

ミナヲ カーテン…？

アサヨ きれか？

ミナヲ 汚なかって思うけど。

アサヨ、カーテンを持って1階へ降りる。

ミナヲ ねえ、何？

ミナヲも1階へ降りる。

ミナヲ

ちよちよ、あー（上へ行きかけてアサヨに）姉ちゃん頼んだ。

ミナヲも2階へ移動。

アサヨ 下、見とかんねよ。

ミナヲ そら、見るとはよかばってんさ…何でそがん避けとつと？

アサヨ 別に。

ステゴ、ネフミと道隆を連れて登場。ネフミは臨月のようだ。

ミナヲ 何か気に入らんことでもあつと？

アサヨ 別に。

ステゴ

まあ、どーぞどーぞ、汚かここですけど。

ネフミ

こんにちはー。

道隆

すいません、おじやまします。

ウキサ

うー。

ステゴ

ちゃんと挨拶せんか。

ネフミ

お久しぶりネー、ウキサちゃん元気ー？

ウキサ

うん。

ネフミ

ほら、いとこのウキサちゃん。

道隆

あ、ども、江須田道隆えすだみちたかと
いいます。ネフミさんと
は今年の春に、その…正
式に。

ネフミ 知つとるに決まつとる
やつかネー

ウキサ

ネー

ネフミ 結婚して何年経つたと
思つとるんね。

ウキサ

3年だっけ？

ネフミ

もう5年よ。

ウキサ

うわー。

道隆

この春、やつと挙式もあ
げまして…。

ウキサ

おめでとうございます。

道隆

ありがとうございます。

ネフミ

何そのやり取り。

道隆

だって式に来れなかった
（ウキサが）んでしょ？

ウキサ

すみませんでした。

道隆

ああ、いえいえ。

ネフミ

体調悪かつたとやる？
仕方なかよねー。

ウキサ

ねー。

道隆

あ、よろしくお願ひします。

ステゴ

すみせんねえ、結婚式
んすぐ後に葬式で。

ミナヲ

誰か、来たごたつ、かな？

アサヨ

うん。

道隆 いや、そんなのは、もう、仕方がないですから。

スゲヲ ミナヲは？

ウキサ あっち。

スゲヲ ミナヲー！

スゲヲ ほら、茶でも入れんか。

ミナヲ はい。

ミナヲ んじゃ。…はい（一階へ移動）。

ミナヲ ああ！（あら！）お帰り！

ネフミ どーも、旦那です。

ミナヲ 初めまして、いとこの麦山ミナヲです。

道隆 ミナヲ、くん。

ミナヲ はい。

道隆 江須田道隆といいます。

ミナヲ ああいや、どーも。

道隆 ネフミさんとは4月に。

ミナヲ あーはい。すいません、式行かれんで。

道隆 いえ。

ミナヲ そっかー、ネーミ姉ちゃんついに結婚式したとやったねー。

ネフミ へへへ。

ミナヲ そい、予定、何月？

ネフミ アハハハハ、んとね、10月。

ミナヲ うわあ。

ネフミ あんたもはよせんね。

ミナヲ え、子ども？

ネフミ 結婚とか子どもとか。

ミナヲ あははははは。

ネフミ ていうかそん前に就職やったね。

ミナヲ するてもう、するする！

ネフミ 就職するする詐欺やろうもん。

ミナヲ うるさいですー。

スゲヲ ミナヲ、菓子かなんかなかね。

ミナヲ ああ、はい。

スゲヲ あと、お茶。

ネフミ あ、あたししましょうか？

ミナヲ よかと、よかと。

スゲヲ カトー茶。

ネフミ は？

スゲヲ あと、お茶…カトー茶。

ネフミ ああ、はい。

スゲヲ ドリフの。

道隆 ああはい。

スゲオ ドリフターズの、ね。

道隆 ええ、はい…。

スゲヲ 8時だよ！

ミナヲ 誰も知らなくてドリフとかもう。

ネフミ 大丈夫大丈夫。

スゲヲ 加トちゃんはあるやろ？だいぶ若い奥さんばもらったとやろ？

ミナヲ 関係ない話せんでよかけん、もう何ねなん。

スゲヲ ま、妊婦さんは、ゆつくりしとかんね。

ネフミ はい。

スゲヲ こい（棺桶にかかっているカーテン）わいね？

ミナヲ うんにや、アサヨちゃん。

スゲヲ ふーん。

ミナヲ なんか暗かし。

スゲヲ ま、バーさん、「マコちゃん」好きやったし…、そんなら、後、頼むけんな。

ミナヲ ああ、うん。

スゲヲ じゃ、なる。

スゲヲ 去る。

ネフミ なんか、婆ちゃん、出てきとるて？

ミナヲ そがん、棺桶とか、ガバーって開いてから。

道隆 え、ええ？

ネフミ アホか、ゾンビじゃなかとやけん。

ミナヲ はい、嘘です。

ネフミ チムナアだけやろ、出てきとつとは。

ミナヲ その、チムナアて、ネーミ姉さん知つとつた？

ネフミ え、知らんやつたと？

ミナヲ 聞いたことあるばつてん…。

道隆 何です、それ？

ネフミ タマシインごたつもんさ。

道隆 タマシイが、出てきて…？

ミナヲ はい。

道隆 え、そういうことつて、(こちらでは)よくある…？

ミナヲ ごたつですね。

ネフミ たまにね。

道隆 今回久しぶりにこちらに来たんですけど、ちよつと色々と訳分かんなくて。

ミナヲ あ、じゃあ、婆ちゃん、まだ見とらつさんと(ニヤニヤ)？

道隆 え、ああ、はい。

ミナヲ えー、じゃあ、ムフっ。

ネフミ なん、なんね。

ミナヲ 見る？

ネフミ え？

ミナヲ バーちゃん。

と言って、棺桶に掛けてあるカーテンに手をかける。

道隆 ええっ！

ネフミ なんこい、バーちゃん？アハハハハ…。

道隆 テーブルかと…。

ミナヲ しがん形のでなかやろー。

ネフミ ごつか居心地悪か、て思つとつたつさ。

ミナヲ おいが悪かつちやなかけんね、何もなかつたら今ごろ「お宮さん」にあつとやっけん。も、そーとー重かつよ。

ネフミ アハハハハ、ご苦労さんです。

ミナヲ では、ご開帳です。

道隆 どああ！見ません、まだ、あの、心の準備が。

ネフミ なら、後で慣れてから。

ミナヲ しがんとは棒ヶ削では、ようあつとです。しがんして死者と親しく接することが大切なんです。

道隆 すいません、いろいろ慣れなくて。

ネフミ 親しくはしてん、ここまではせんやろ。

道隆 へ？

ミナヲ あ…、お茶入れてくるけん(立つ)。

ネフミ あ、あたし、しよつか？

ミナヲ 大丈夫？

ネフミ お茶くらい大丈夫よ（立つ）。
ミナヲ じゃ、お言葉に甘えて。

ネフミ、去る。

ミナヲ 今日は、車で？

道隆 いえ、JRと、海削鉄道と、バスで。

ミナヲ 大変やったでしょう？

道隆 5時間かかっちゃいました。

ミナヲ うはー、花熊はなぐまからですよ？

道隆 はい。

ミナヲ 海鉄うみてつはのんびりしとっていいでしょ。

道隆 ですね。

ミナヲ そんな後のバスがいらつくでしょう？

道隆 ええ、冷房がなくて。

ミナヲ 赤字バスですから。

道隆 あー。

ミナヲ 同じ九州でも、こっちは全然違うでしょう。

道隆 ですね、何か、外国に来たみたいですよ。

ウキサ あはははは…。

ミナヲ そんなに違います？

道隆 雰囲気とかが…。

ミナヲ ですかねえ…。

外から祭りの音が聞こえる。
ミナヲも道隆も、その音の方を見て。

ミナヲ 今日から3日間お祭りなんです。来る時、見らっさんでした？

道隆 え？

ミナヲ 灯籠とうろう。

道隆 いや…。

ミナヲ 灯籠がいっぱい付いって、御神輿おみこしごとたつ。

道隆 ああ…。

ミナヲ こん時期、死んだ人の帰ってくつとです。それで「どうぞお帰り下さい」って海に流すとです。

道隆 海に、あの御神輿を？

ミナヲ 凄いでしょ。

道隆 いやー、後で、ほら、ゴミとか…。

ミナヲ それは、役場の人間が回収するとです。

道隆 あ、なるほど…。

ミナヲ …ネーミ姉ちゃん、大変じゃなかです？

道隆 え？

ミナヲ 姉ちゃんコワかでしょ。

道隆 あー…、まあ…、でも、うちはそれでバランス取れてるんで。

ミナヲ 愛…ですか？

道隆 まあ、そうなんですかねえ。

ミナヲ 愛？

道隆 愛。

ミナヲ あい？

道隆 愛です。

ミナヲ あい…。

道隆 …愛。

ウキサ （歌い出す）♪ アイアイほー アイアイほー 愛しちやったん

だよ

なんとなくみんなで歌い締めてしまう。拍手もしたり。

♪アイアイほー(アイアイほー)
アイアイほー(アイアイほー)
南の島で

アイアイほー(アイアイほー)
アイアイほー(アイアイほー)
長生きしてね

アイアイほー(アイアイほー)
アイアイほー(アイアイほー)
愛しちゃったんだよー

ネフミ、何事かと様子をみていたが、

ネフミ ねえ、お茶っ葉どこ？

ミナヲ あー、はいはい、ちょっと、確か冷蔵庫に冷やしたとん(あつたとやけど)…。

ミナヲとネフミ、去る。
ウキサ、道隆の手を取って、カズクンの頭を撫でさせようとする。

道隆 え、撫でるの？

ウキサ うん

道隆 あ、僕はその…、動物ダメなんですよ。

ウキサ、「撫でて！」っというジェスチャー。

道隆 ああ、はい、やってみます。

道隆、恐る恐る撫でる。

カズクン ほよお…。

道隆 (うすら笑い) かわいいねえ。

カズクン ぐへへへ。

ネフミとミナヲ、お茶とお菓子を持って登場。

ネフミ お待たせしました。

ミナヲ 冷たかどで良かったですよね。

道隆 ええ、あ、どうも。

ネフミ カズクン、大きくなったねえ。

ミナヲ そーお？

ウキサ かーじゅくーん。

ミナヲ 今、夏やつけん、だいぶ毛は減つとるとけどね。

カズクン ぐへへへ…。

道隆 かずくん、ですか…。

ミナヲ はい。

道隆 随分と大きい猫なんですねえ。

ネフミ カズクン、猫じゃないとよ。

道隆 え、じゃあ…。

ミナヲ 一応、猫の一種ですけどね、猫ねこ似にていうて棒ぼうヶが削ずりの辺りにしかおらんとです。

道隆 へえー。

ネフミ もう、結構いいお婆ちゃんやつたろ？

道隆 お爺ちゃんじゃなくて？

ミナヲ こいは、メスですから。

道隆 じゃあ、カズちゃん…。

ミナヲ カズクンって名前なんです。

道隆 …ん？

ミナヲ ちゃん付けしたかったら、カズクンちゃんとかになるとですよ。

道隆 ああ！ああ、カズじゃなくて、カズクンまでが正式な。

ミナヲ そうそう。

ネフミ (ニヤニヤして) 正式でなん？

道隆 え？

ミナヲ 戸籍……とか？

ネフミ なんそい。猫似に戸籍で。あはは。

道隆 カズクーン（触らないけど、親しげ）。

ミナヲ 江須田家の戸籍に入れてやりますか。

道隆 あーなるほど、そうですね。

ネフミ 1人で充分さ。

道隆 1人でいいです。

カズクーンがなぜか怒りだす。

道隆 うわあ。

ウキサ どがんとしたと、カズクーン。

ネフミ ちよっかい出すけんよ。

カズクーン また、来やがった！

ミナヲ カズ、どがんとしたとか？

カズクーン しつこいのは好かんのじゃー！クサレウンコが！

クサレウンコと言われた、同じく猫似のジョニイが現れる。

ジョニイ すいませーん、お邪魔します。

カズクーン 来んなー！

道隆 もう1匹飼ってるんですか？

ジョニイ ツレないなあ。

ミナヲ 飼ってはないです。勝手に来とるだけで。

カズクーン ちよお！もう、帰らんか！

ジョニイ そんなー

ネフミ ね、もしかして。

ミナヲ はい、カズクーンの彼氏です。

道隆 やるなあ、カズクーン。

カズクーン ムカツクー！

カズクーン、二階へ移動。

ジョニイ あ！すいません！

ネフミ お、ふられた。

みんな ギヤハハハハハ……

ミナヲ 呆然としとるけん。

道隆 動物の割には、分かりやすいリアクションですね。

ジョニイ おつかしーなー。

ウキサ 駄目んごたつよ。

ジョニイ え？

ウキサ カズクーンの趣味じゃなかごたつ。

ジョニイ いや、そういうアレじゃないんだけどね。

ミナヲ ジョニイ、姉ちゃんに説教されよる。

ウキサ もう、あきらめんね。

ネフミ 名前、ジョニイていうと？

ミナヲ うん、ジョニイ。意味はなか。

ジョニイ、2階に移動しようとする。

ネフミ お、ジョニイ、まだ諦らめ

とりません！

ジョニイ ねえ！

道隆 なんか、愛らしいなあ。

ジョニイ ちよっとさあ、こないだ

の件なんだけどさ。

ネフミ オス？オス？

ミナヲ うん。

ネフミ かわいー(ジョニイを撫でる)。

ジョニイ ぶは！

ジョニイ、物陰に隠れる。

みんな ギヤハハハハハ

ジョニイ こないださ、怪しい男と喋りよったやん？

ジョニイ チンピラみたいな男、あれ誰なん？

ジョニイ ああいうのに付いて行ったらいけんよ。

ジョニイ 話聞いてよ。

ナガサ坊がやって来て。

ナガサ坊 どもども。

カズクン お、ナガサ坊。

ジョニイ ご苦労さまです。

ナガサ坊 ナガサ坊じゃ。

ネフミ もう1匹増えた。

道隆 あれ何もの？

ミナヲ あいつ何の動物か分からんよ。

カズクン まだ、おるんか！

カズクン 知らん。

カズクン 知らんて。

カズクン はいはい。うんうん。

ナガサ坊 カズクン、刺身食うかね？

カズクン 食う。

ナガサ坊 したら今から北倉さん家に行ってみんか？

カズクン 刺身あるの？

ジョニイ ああ、あそこの爺さん、魚釣り趣味でさ、月水金は、魚がいっぱいあるの。

カズクン 魚？

ジョニイ 魚。
ナガサ坊 腕は確かだもんで、大漁じゃよ。

カズクン うーん。

ネフミ 何？

道隆 何らかの交渉が、行われているものと思われません。

ジョニイ その娘さんがね、えーつと娘っていつても、だいぶおばちゃんなんだけど、そのおばちゃんみたいな娘さんがね、釣ってきた魚を刺身にしてくれるの。

カズクン さしみ？

ジョニイ・ナガサ坊 さしみ。

ウキサ おさしみ。

みんな ？

ナガサ坊 ワシと一緒になら、家に入
れてくれると思うぞ。

カズクン うー。

ミナヲ カズ、こつち来んね、き
ばつとらんぞ。

ジョニイ イカもあるよ。

カズクン イカ!?

ジョニイ イカ。

ウキサ いか。

カズクン イカ刺?

ナガサ坊 イカ刺。

カズクン …うー。

ナガサ坊 魚、魚、イカ、イカ、刺
身、刺身じゃ。

ジョニイ ヨイシヨ!

カズクン いー…よし(2階から降り
てくる) 行こうか。

ジョニイ ホント?

カズクン 案内してくれ。

ナガサ坊 よろしい。

ジョニイ よっしゃー

ナガサ坊 さささ、こつちじゃ。こつ
ちじゃ。積もる話もある
でな。

ジョニイ さささ、どうぞどうぞ。

ナガサ坊の誘導で、カズクンとジョニイが退場。
ジョニイは足もとのおぼつかないカズクンの手を取り、「だいじょうぶ?」と
か声を掛けながら優しく連れ去る。

ミナヲ おーカズクン、2匹に付いてったばい。

道隆 カズクン、お婆ちゃんなんですよねえ。

ミナヲ うん、まあ

道隆 いくつなんですか?

ミナヲ っとお…僕が中学に入ったくらいで、来るようになった
けん…あ、あいつ初めはよそで飼われとったですよ。で、
ウチに来るごとなつて10年くらいで、あん時もう大きかったけん

ネフミ 13〜4才くらい?

道隆 人間で言ううと。

ミナヲ 70くらいやろか。

ネフミ 70にして、現役げな。

道隆 男2人が迎えに来たもんねえ。

ミナヲ ばつてん、最近は一日中グターつと寝とったりとか、やつぱり年
とつたなーてありますよ。ボチボチかなみたいな。

ネフミ そーねー。

道隆 ボチボチですか…。

ウキサ ボチボチ?

道隆 うん、死ぬかもしれない。

ネフミ ちよつと!

ウキサ カズクン、死んど?

道隆 (道隆に) 何言いよつとね。

ネフミ (こめん)

道隆 死なんよ…、まだ。

ミナヲ おらんごとなつたら、スゲおいちゃんとか一番落ち込むとじゃな
い。

ネフミ 意外とねえ。

道隆 意外じゃなかですよ、ホント、今、オヤジの一番の話し相手カズ
クンですから。

ミナヲ

ネフミ ホント？

ミナヲ オヤジとカズクン2人で何かしゃべりよるとよー見るし。

ネフミ 何しゃべりよると。

ミナヲ …何か、どーでもよかこと、「眠かでちゅか〜」とか。

道隆 赤ちゃんしゃべりですか。

ミナヲ たいてい。

トラヲとスゲヲ登場。

トラヲ こんばんはー。

ミナヲ おつかれー。

ネフミ お久しぶりー。

トラヲ おおお！太かなあ。

ネフミ 大変かとやつけん。

道隆 この間は、ありがとうございました。

トラヲ えーっと、道隆…さん。

道隆 はい、えーっと、トラヲ…さん。

トラヲ はい。

道隆 (ややネフミに) ミナヲくんのお兄さん…。

ネフミ 違うとる。

トラヲ 一応、こいつらの叔父にあたります。

道隆 ああ…そっか、叔父さん…。

トラヲ ウキサ！

ウキサ ウー！

トラヲ・ウキサ だー！！(何かポーズ)

ミナヲ 何そい。

トラヲ (ニヤニヤして答えずに) お2人は「お宮さん」の方は？

ネフミ まあだ。行こうてしたら、スゲおいちゃんに捕まってコッチに。

スゲヲ 後で行くけんよかやるもん。

ネフミ あ、本家ん方、私も何か手伝った方がよかやるか？

トラヲ あー、そうね…。

スゲヲ よかよか、妊婦さんはゆっくりしとかんね。

ネフミ あ、はい。

トラヲ どがん？婆ちゃんのチムナア、帰って来んと？

ミナヲ うん、変わらん

スゲヲ ー、うまくいかんねえ。

道隆 あの、さっきも聞いたんですけど、チムナアって何なんです？

ネフミ だっけん、靈魂のごたっ…？

トラヲ チムナアは「中身」て意味です。漢字やったら「気持ん中」て書

きます。そいがなまってチムナア。

道隆 きもちななか、もちななか、チムナア…。

ミナヲ ちよっと無理あるなあ。

トラヲ だって本当やもんば。

スゲヲ 道隆さんはこっちん葬式は、よう分からんでしょう？

道隆 ま、そうですね…。

トラヲ けっこう独特なんですよ。

ネフミ よそのに行つて初めて気付いたもん。あ、ウチで全然違うて。

道隆 あーん。

スゲヲ ま、最初は割と普通のお葬式ばあげます。そいで、普通は火葬場

に行つて、燃やして、骨壺に骨ば入れて、お墓に入れますよね。

道隆 ええ。

スゲヲ 棒ヶ削は、その辺が全然違うとです。昔々、この辺では、死体ば

海に流しとつたらしかつですが、まあ、最近はそうもいきません

から「おくり島」ていう島まで運んで、そこで燃やして、灰ば海

に流すとですたい。

トラヲ 「おくり島」に出る船の発着所が「お宮さん」なんです。

ミナヲ チムナアん戻りしだい、お宮さんまで、運ぶとです。
道隆 はあー、たいへんですねえ。
スゲヲ 特に長男がたいへんかとです。
ネフミ すいません。
道隆 え？
ネフミ うちん親が一番上やつけん。
道隆 ああ。
スゲヲ そがんことで、次男の私と、息子のミナヲで、こん棺桶ば作って。
道隆 作るんですか？
スゲヲ そして、お宮さんまで運ぶとも、私ら2人だけなんです。
ミナヲ めっちゃ重かですよ。
道隆 ご苦労さんです。
スゲヲ まあ、自分の親ですから。
道隆 しかし、海に流してたんですか…昔は。
スゲヲ ……こん言い伝えでは、我々人間は海から来たことになつとりまして、死んだら、海に返すっていう意味のあつとですたい。
道隆 ……いや、そういう言い伝えっていいですよね、葬式にしても、なんか…納得させられますよ…ね。
トラヲ 面倒くさかだけですよ。
スゲヲ わいは何もせんでよかやろが。
トラヲ お兄様のおかげです。
ミナヲ あはは、4番目やつけん、まず回ってこんもんね。
スゲヲ ほんなら、後、頼むけん。
ネフミ はーい。
スゲヲ ただ待つつつても、あれやつけん、何かバアさんが寄ってくるごと、楽しんでしとつて。
みんな はーい。

スゲヲ わいは専門家やつけん、しつかりせるよ。
トラヲ はいはい。
スゲヲ んじゃー、なる。
皆 なる。
スゲヲ 去る。
ネフミ 何か忙しかごたつね。
トラヲ そら喪主やもんば。
ネフミ あそつか、あー。
ミナヲ 母さんとかいつちよん、本家から出られんごたつたし。
ネフミ やっぱり手伝いに行つた方がよかやろか？
ミナヲ 何もせんでよかて。
トラヲ 臨月の人はなんもせんでよか！つて追い返されるやろ。
ミナヲ おいとかおっただけで邪魔物扱いやけん。
ネフミ おばちゃん、さばけとらすけんねえ。
道隆 あ…、トラヲさんは何の専門家なんですか。
ネフミ トラ兄ちゃんはね、霊能力のあつと。
道隆 え…、え、え、つと、それは…。
ミナヲ ちよつと見えるらしいんです。
道隆 ええ？
トラヲ ちよつとだけやんか。大袈裟て。
道隆 え、でも、ちよつとは、見える。
トラヲ 見えるというか、分かる、というか。
道隆 へえー。
ネフミ ただの体育教師やけどね。
道隆 あ、先生なんですか。
ミナヲ スケベ教師です。

トラヲ スケベ教師トラヲです。
ネフミ やめんね。
トラヲ 棒ヶ削水産高校に来ることんあったら、鍛えてあげますよ。
道隆 えーつと…。
ネフミ 棒水高ぼうすいこうに今さら何しに行くかね。
ミナヲ そら新入生やろ。
道隆 あははは…。
ネフミ 鍛えるて、何ば鍛えると？
トラヲ スケべば。
ネフミ 鍛えんでよか。
トラヲ 初めまして、江須田道隆です。45歳です
道隆 43です。
トラヲ 43歳です。今日から高校1年生として…。
道隆 行きませんよ、今さら。
みんな ……。
ネフミ 行かんでしょ。
ミナヲ 仕事関係とか。
トラヲ お仕事は？
道隆 郵便局で配達を。
ミナヲ プッピー、郵便屋さんです。速達100個持ってまいりました。
トラヲ これはこれはネフミさんの旦那さん、ちようどよかった。どーです？一緒に体育の授業なんぞ。
ミナヲ いいんですか？
道隆 いやいや、県が違いますからね。速達って決められた区域しか配
ミナヲ はないんですよ。
トラヲ はあ…。
あ、そり。

ネフミ ごめんねー、道隆さん、こがんと付いて行っきらんとよ。
トラヲ 今、みんな一生懸命、楽しくして、婆ちゃんば呼びよるとですよ！
道隆 え、あ、あ、すいません、えと、頑張ってみます！
ミナヲ そんいきです！
トラヲ 道隆さん、体育の授業、女子はブルマーですよ。
道隆 (わざとらしく演技) ええ？本当ですか！
トラヲ 本当です。
ネフミ 嘘です。
トラヲ 都会ん高校では最近やめとるらしかですけど、ウチは田舎ですから、大丈夫です。
道隆 うらやましいですなあ。
ネフミ だいぶ前に無くなったやろ。
トラヲ あと、最近の女子高生は髪ば染めたり。
ミナヲ 煙草ば吸うたり。
トラヲ もう訳分らんですけど、ウチは田舎臭か子ばつかいで安心できま
すよ。
道隆 それは…いいですなあ！
ミナヲ よかでしょう！
道隆 よかです！一度体育の授業を受けてみないといけませんなあ！
トラヲ・ミナヲ・道隆 ガハハハハ…。
ネフミ (道隆をたたく) バーカ。
道隆 え、だつて、話を合わせて…。
ネフミ あんたやっぱバカやろ。
道隆 話を合させただけなのに。
ネフミ トラ兄ちゃんも、変か話やめてよ。ウチん人、純やつけん。
トラヲ 純って…、意味分つとると？
ミナヲ トラ兄ちゃんなんか凄かつぞ、教え子と付き合つとるとやつけん。

ネフミ・道隆 ええ？

ミナヲ つて、こい言うてよかったかな。

トラヲ あー、よかよか。

ネフミ え、そがん…。

トラヲ 付き合つとるていうてん、あいですよ、Hはしませんよ。

ミナヲ これぞ本当の純！

ネフミ・道隆 ……。

トラヲ ま、そんうちすつけど。

道隆 え…。

ミナヲ そいは…まずかやる。

ネフミ そうよ！

ミナヲ 純愛て言いよつたやんね。

トラヲ ウソたい。冗談たい。

ミナヲ・ネフミ・道隆 ふうん…。

トラヲ (ネフミと道隆に) あんたらさ、どこで知りおうたと？

2人、見合つて。

道隆 道端です。

トラヲ 犬か、あんたらは。

ネフミ ウチにね、配達に来よつたとよ。

道隆 やめましよう、恥ずかしいから。

トラヲ いやあ、聞きましょう。

ミナヲ さ、どうぞ。

ネフミ あんねえ。

道隆 やめようよ。

ネフミ (う) るさかね…、えとね、私、文通好きさね、そいで…。

ミナヲ え、文通？

ネフミ 文通。

トラヲ 今どき文通？

ミナヲ 似合わーん。

ネフミ (う) るさかね。

ミナヲ すみません。

ネフミ で、ね、ザーっと文通友達とかおつたつやっけど、そんな中ね、絶対手紙の送り主人名前のトコロに「郵便屋さんありがとう」って書く人のおつたと。そいがね、そんうち、その「ありがとう」の横に「いいえ、どういたしまして」って書いてあることなつたと！

みんないはい。

ネフミ 「誰!」私、思ったと。明らかに他人の書いた字やつたし。でね、とりあえず一番怪しか郵便屋さんば張つたと。

ミナヲ だいたい分かつてきた

ネフミ そいがね、こん人やつたと！書きよつと！人ん家^ちん前で！

トラヲ とつ捕まえて、手込めにしたつか！

ネフミ せん!…私、そがん彼がごつかチャーミングに見えたと…、(こ

ミナヲ (やはり芝居) は!す、すんまつせん!

ネフミ 待つて郵便屋さん、うちで冷たかお茶でもどがんですか？

トラヲ 暑い昼下がりでした。

道隆 勝手なこと言わないで下さい。

トラヲ つい、私も…。

ミナヲ よかとですか。

道隆 そんな言葉使いません。

ネフミ ええ。

ミナヲ では、お言葉に甘えて…、あ!あの、これ(書くふり)は局の方

ネフミ には内緒に。

トラヲ すてき。

ネフミ

ミナヲ

ネフミ

ネフミ

トラヲ 何が？
ネフミ 何てやさしいお方。
トラヲ ただの変態やろもん。
ネフミ よかったら、シャワーば浴びて行きませんか？
道隆 違うよね！ そんなこと言っていないよね？
ミナヲ ええ、喜んで。
道隆 喜んでません。
トラヲ そして、道隆がシャワーを浴びて出てくると、そこにはかなり出来上がったネフミが待っていた。
ネフミ うふーん。
道隆 やめなさい！
みんな ……。
道隆 何で君はそんなことするわけ？
ネフミ え、今、盛り上げなきゃいけないあれだし。
道隆 何か、変なふうに見えるじゃない。
ネフミ 大体、こがんもんでしょ。
道隆 こがんもんじゃないでしょ！あの、僕らもって清い関係でしたから。
トラヲ 子供ば作つとつて、清いもなんもなかでしょ。
ネフミ そうよ。
道隆 君が言うな！
アサヨ、1階に降りてくる。
ネフミ あら！アサちゃん、おったと。
アサヨ うん、久しぶりー、だいぶ大きかねえ。
トラヲ 何しよったとや？
アサヨ ちよっと気分の悪かったけん、寝とつた。

道隆 式の時はありがとうございました。
アサヨ いえ、生活の方はどうです？
道隆 ずっと一緒には住んでたんですけどね、こんなことになっちゃったんで、バタバタと色んなことが…もうバタバタしちゃって。
ネフミ も、大変ねえ、結婚、葬式、出産。
トラヲ 世の中、うまい具合に出来とつとよ。
道隆 あ、パジャマ。
アサヨ はい？
道隆 いただいたパジャマ、すごく気に入ってます。
アサヨ いやあ、もう、そんな…そんなにいいもんじゃありませんから。
ネフミ 本当によかよー、肌触りとか。
アサヨ ホント？あたし、ガラだけで決めたけん、そがん。
ネフミ ま、役に立ってますんで。
アサヨ なら良かった。
ミナヲ おいのやった貯金箱は？
道隆 貯金してます。すぐく役に立ってます。
トラヲ おいのやったお金はー
ネフミ 貯金しています。
道隆 役に立つ、はずです。
アサヨ トラ兄ちゃんさあ…。
トラヲ 何？
アサヨ 上に、婆ちゃんおるごたつとけど…。
みんな ええ!?!
道隆 頑張った甲斐がありましたねえ。
みんな え？
トラヲ 行ってみる。

トラヲ、2階へ急ぐ。

ミナヲ ホントに？

アサヨ たぶん。

ミナヲ、続いてアサヨ、2階へ。

道隆 いるって、何が？

ネフミ 婆ちゃんって。

道隆 何それー、どういうこと？

ネフミ、続いて道隆も2階へ。

(2階)

トラヲ どこ？

アサヨ この辺やったけ…ど。

トラヲ おらんね

アサヨ うん…。

みんな ……。

カズクンとスゲヲ、戻る。

カズクン たらいまー、イカサシうまかったじよ。

ウキサ よかったねえ。

カズクン うん。

スゲヲ ありや、わいだけか。

ウキサ 上、行つとる。

カズクン お腹いっぱいだす。

みんな、1階に降りてくる。

スゲヲ おお。

トラヲ ああ。

スゲヲ 何しよつと、そがん狭かそこ大勢で上がつて。

トラヲ うん…あ、兄貴ん方はどがん？

スゲヲ 変わりなか。こつちは？

トラヲ アサちゃんが、上で、婆ちゃん見たて。

スゲヲ おお！で？

アサヨ 見たていうか、居るなーっていうのが分かったとやけど…。

トラヲ もう、おらんごとなつとうばってん。

スゲヲ あそうか…、みんなであつち(本家)に行った方がよかつじやなかか？

トラヲ ばってん、あつちで始まつたらマズかやる。

スゲヲ うーん…、ま、そうか…。

トラヲ オヤジン時んごて。

スゲヲ あーうんうん。

トラヲ ここなら、おいも居つし、道隆さんもおっけん。

道隆 へ？

スゲヲ 身内じやなか方がよかか。

トラヲ うん

スゲヲ (ニコニコして道隆に) すいませんねえ、変なことになつてもて。

道隆 いえ。

スゲヲ 田舎の方は訳ん分らんでしょう？

道隆 そんなことないです。

スゲヲ 得なことないです。

道隆 え？

トラヲ 分かりにくかこと言うなよ。

道隆 え？何か…。

トラヲ そんなことないです、得なことないです。

道隆 ああ…。

トラヲ ダジャレ…。

道隆 「そんなこと」が「損なこと」ね、あははは…。

スゲヲ ハーッハッハッ(カズクンに) おい、なんちゆう格好で寝とつとか(こそぐる)。

カズクン やめてー、殺さないでー。

ミナヲ さつきさ、ジョニイに付いて行きよつたよ。

スゲヲ わいは、いっつも楽しそうじゃなかね、おお？

ネフミ スゲおいちゃん、カズクンと仲のよかね。

アサヨ おいちゃんの方が一方的にね。

スゲヲ そがんことなかぞー、のお、何か言わんか？

カズクン ……。

ミナヲ すかんで言うてやれ。

カズクン ……。

スゲヲ 仲よかよねえ(と、じゃれるが、カズにそっぽ向かれ) …じゃ、向こうに行つてくるけん。

トラヲ あ、うん。

スゲヲ ミナヲ、ちゃんとせろよ。

ミナヲ ああ、うん。

スゲヲ んじゃ、なろ。

スゲヲ、去る。

ミナヲ (婆ちゃんの物真似で) 何ばちゃんとすつとへ？

ネフミ あ、うまかねえ、婆ちゃんやろ？

ミナヲ あら、そがんじやろかい(真似)。

道隆 こんなのだつたっけ？

ミナヲ あらお兄さん、もう忘れらしたと？(真似)

トラヲ 今んとは違うね

アサヨ なーんか水商売んごたつた

ミナヲ そーお？

トラヲ 道隆さんは、婆さんとは

道隆 結婚の時と、その前に一度。

トラヲ 二度。

道隆 ええ、それも2言…3言で。

ミナヲ なんね、せつかく似とつとに、違いの分つてもらえんやつかね

トラヲ 物真似作戦も有りよね。

アサヨ みんなで真似すつと？

ミナヲ したら、そんなうち本物の出てくるとき、棺桶ガバーつて。

ネフミ やめんね。

カズクン 婆ちゃん出てくんの？

ウキサ 会いたか？

カズクン うん、婆ちゃん、よー飯食わしてくれただけね。

ウキサ こいからは、あたしがあげるね。

カズクン うん。

ネフミ ウキサちゃん、何ばあげると？

ウキサ ……メシばあげると。

みんな ……？

ネフミ (物真似で) そいはどがんことね？お婆ちゃんに教えてくれんね？

ミナヲ 似とらん。

トラヲ 似とらん。

ウキサ いっちよん似とらん。

みんな あはははは…。

ネフミ ひどか！みんなひどかねえ！

ミナヲ (真似) そがんことじゃあ、お婆ちゃん、出て来られんよ。

みんな おー。
トラヲ やっぱ、うまかねえ。
アサヨ うん。
道隆 その、お婆さんが、居たとか出るとか来るっていうのは…、幽霊
トラヲ まあ…そうですねえ。
道隆 おー…。
アサヨ 目えに見えとる訳ではないとですけど。
トラヲ 脳が見とつとですよ。
ミナヲ こーね（頭で見ようとする）。
ネフミ パーカ。
道隆 そういうことは…よく、あるんですか？
みんな あー…。
アサヨ 爺ちゃん時も、どっか来たよね。
トラヲ 爺ちゃん時は、ほら、姉さんトコに。
ネフミ あー、爺ちゃん心配しとったけんね、ハルお婆ちゃんのコト。
アサヨ 育て方、間違ごーとつたー（やや真似して）って言いよつたもんね。
道隆 はい。
トラヲ オイの姉で、おつとですよ、45歳で独身のが。
道隆 ああ…。
トラヲ 娘1人でしたし、無事、嫁に行かせてやりたかったっていうとん
あつとじやなかですかね、幾つになつてん。
道隆 一番、心配というか、心残りのある人の所に…来る…？
ネフミ （アサヨに）あんた早よ嫁に行かんと。
アサヨ なんて。
ネフミ 婆ちゃん心配しとるとやつけん。
アサヨ なんて、心配すつと。

ネフミ そいは知らんけど…来とつたとやろ？
アサヨ そいは…そうやけど。
ネフミ ほらあ。
アサヨ でん、心配かけとるとは、ミナヲちゃんの方が大きかやろもん。
ミナヲ 他人^{ひと}ん振んな！
ネフミ あ、そーよ、就職、どがんなつたと？
ミナヲ あいたたた…。
ネフミ ねて、もう卒業したんやろ？ どがんなつたと？
ミナヲ どがんで。
トラヲ どがんもこがんも。
ミナヲ 就職せんことにしたけん。
ネフミ せんて…働かんかと？
ミナヲ そら…何かして、働くとは思うけど…。
ネフミ スゲおいちゃん、何も言わんと？
ミナヲ 言う言う、言うよ、めっちゃ言う。
トラヲ だいぶ諦めたごたつけど。
ミナヲ も、そーとー言いよつたけん、怠け者とか、馬鹿とか。
トラヲ へっぷり虫とか。
みんな あー。
アサヨ うんち虫とか言いよらんやつた？
ミナヲ・トラヲ 言うた。
ネフミ ひゃー、おいちゃん結構、口悪かねえ。
ミナヲ 悪か悪か。
トラヲ 俺^{おれ}もね、だいぶ頼まれたもん「あん、クズば説得してくれんね」つ
て、兄貴と婆さん両方に。
ネフミ 説得したと？
トラヲ カタチだけね。

ネフミ ちゃんと説得せーなん。
トラヲ 俺が説得しても、説得力なかやろ。
アサヨ でん、一応、学校の先生やつけん。
ネフミ 一応ね。
トラヲ 生徒に手え出しても、一応教師なんですう。
ネフミ ちよつとお。
ミナヲ え？手え出したと？
トラヲ 手えだけね。
ミナヲ なんそい。
トラヲ にゅー(手を出す仕草でふざける)。
ミナヲ ぎやはははは…。
ネフミ やっぱ「トデータ食い」やん。
トラヲ …なんて。
ネフミ やっぱ、あんたは「トデータ食い」て言いよるとき、茶化してばかりだから。
アサヨ ネーミさん、やめよう。
トラヲ 食うとらんで！
みんな ……。
アサヨ 昔ん話やろ。
みんな ……。
道隆 トデータって何なんです？
みんな すいません。
道隆 ふにやふにやしとって、甘酸っぱいとですよ。
道隆 え？
カズクン いい夢見れるで。

トラヲ、カズクンを撫でて、二階へ去る。
ミナヲ トラ兄ちゃん。
みんな はあ…。
道隆 トデータって、何なんです？
ネフミ 海岸にね、トデータって木のあつとき、そんな木の実。
道隆 果物？
ミナヲ て訳じゃあなかですけど…。
アサヨ トデータて毒のあつとです。少し。ちよつと幻覚作用もあつて。昔の人は皆食べとつたらしかつですけど、時々死人の出たらしかとです。
道隆 死人が？
ミナヲ そいで、トデータ食う奴はろくでんなかとか、いろいろ言われたりしたつですよ。
道隆 あー、え、本当に死んだ人とかいたんですか？
ネフミ 戦前の話やつけんね、まあ、どこまで本当かは。
ミナヲ …(道隆に) トラ兄ちゃん、小さか頃、滅茶苦茶やつたですよ。婆ちゃんに「鬼っ子！」とか呼ばれよつたですから。
アサヨ 言いよつた言いよつた。
ネフミ あん人ね、高校に行つて、陸上始めたやろ、そいからおとなしくなつたとよ。
ミナヲ 結構すごかったとやろ、陸上。
ネフミ うん、全国大会とか行きよつたし、大学も脚で入つたようなもんやけんね。
道隆 へー、凄い人なんですな。
アサヨ 私も知らんやつた。
ミナヲ うそー、昔騒ぎよつたたい、トラ兄ちゃんトラ兄ちゃんつて。
アサヨ う…ん。

ネフミ 一時期、オリンピック候補になるかもて言いよったやつかね。

アサヨ ああ、そう言えばなんか…。

道隆 駄目だったんですか？

ミナヲ なんか、事故にあっただらしかつですよ。

アサヨ・ネフミえ？

ネフミ そがん？

ミナヲ うん。ほらトラ兄ちゃん「オイ、才能なかったけん」とか言いよったやろ？

アサヨ・ネフミうん。

ミナヲ あい、嘘んごたつよ。

アサヨ・ネフミえ…。

ミナヲ こん前、就職ん事で、おいは説得しに来た事んあったつさ、カタチだけやったんかも知れんけど。で、そんな時ね、言いよったつさ…、自転車に乗つとつて、自動車に軽く当てられて、足ばひねつたて。

ネフミ そいで？

ミナヲ たいした事なかねー、て思つたら、足ん筋ん伸びんでから、全力で走れんことなつたて。

アサヨ で？

ミナヲ だけん、自分は仕方なく、他に出来るものなかけん、体育教官になつたて。

ネフミ まあ、そがん人やっけんが。

ヒロポン、じわーっと登場。

ゆっくり回り込みながら、カズクンに近づく。
カズクン、ウキサ、ちらっとヒロポンを見るが、無視。

ヒロポン こないだはどうも、どうもどうも。

カズクン ええ？

ヒロポン あれ？覚えとらん？

カズクン お？

ヒロポン あんた、カズクンだろ？

カズクン うん。

ウキサ カズクン。

カズクン ウキサちゃん。

カズクン・ウキサ にゅーん。

ヒロポン オレのコト、覚えとらん？

カズクン オレ？

ヒロポン オレ、ヒロポン。

ウキサ ひろぼん？

カズクン 知らんよ。

カズクン・ウキサ ねー。

ヒロポン いやいや、よう見てんちや、オレよオレ。

カズクン どこかでお会いしましたかねえ？

ウキサ 会うとらんやろ。

ヒロポン 息子よ息子、覚えとらんの？

カズクン えー…。

ヒロポン うわ、シヨック。

カズクン え、ヒロポン？

ヒロポン、ヒロポン、あんたの息子。生き別れになつたぶん10年くらい。

カズクン うーん。

ウキサ うっそ、うっそ、うっそ、うっそ、うっそ、うっそ…。

ヒロポン うるせえちやお前。お前、10年前とか知らんめえが。

ウキサ 知らんけど…、え、カズクンそがんことあつたと？

カズクン あー、つたかも知れん。

ウキサ 息子が？

カズクン おつた気がする…。

ヒロポン そやる？間違えねえちや。
ウキサ うっそ、うっそ、うっそ、うっそ…。
ヒロポン うるせえちや、黙っとけきさん。オレは今カズクンと話しよるんちや。

皆、しばらく黙って聞いていたが。

ミナヲ うるさか！何かわい！
ウキサ どろぼーネコ！

皆 ん？
ヒロポン 泥棒やねえちや、息子ち言いよるやろうが！

ミナヲ うるさか！！
ヒロポン ヒロポンヒロポンヒロポンヒロポンヒロポンヒロポン…。

ミナヲ うるさかうるさかうるさかー！

ヒロポン バーカ！きさんこの！

ネフミ ここん子じゃなかよねえ。

アサヨ 最近、時々、見かける…けど。

ミナヲ 出てけ！

ヒロポン くっそ！ 覚えとけよきさん！ ばーか！あーほ！

ヒロポン、叫びながら去る。
その様子をナガサ坊が見ている。

ネフミ 何あれ？

アサヨ 知らん。

ミナヲ ただの野良やろ。ぎやーぎやー騒いでから。

カズクン ぞわってした。

ウキサ え、ほんとなん？

カズクン わからん、わからんのんよ。

道隆 サカってるんじゃないのかな。

皆 あー。

ネフミ なーんか、ギラギラしとったし。

ナガサ坊 あいつには気を付けるんじゃないぞ。

カズクン 分からのよ…。

ナガサ坊、仕方なさそうに立ち去る。

ミナヲ あがんフラフラした野良にロクなどおらんけんね。

アサヨ それ、自分の事やろもん。

ミナヲ あ？

アサヨ ミナヲちゃんも、フラフラしとるただの野良やろ。

ミナヲ なんて…。

アサヨ 仕事も決めんでから。

ミナヲ トラにいちちゃんが言いよったつき「何事も運が大事」て、いくら才能のあつてん、努力してん、運の無かつたら駄目で。

アサヨ あんたは、才能も無かし、努力もしとらんやろ。

ミナヲ なんて！

ネフミ まあまあ、(ミナヲに) 何でんよかけど、飯ば食うには働かにかい

ミナヲ けんよ！

ああ…。

ネフミ やりたか事ん無かなら親ば安心させる為に適当なトコに就職して

もよかつちやない？

ミナヲ ああ、うん。

道隆 僕も、郵便屋になりたくて、なった訳じゃないですから。

ミナヲ …はい。

アサヨ ミナヲちゃんはさ、自分ばスゴか人間て思つとるとやろうけど、

多分、スゴクもなただの人と思うよ。

ミナヲ がんこと言うなて！気分悪かねえ。

アサヨ 婆ちゃんも言いよったやろ、麦山家^けの中でん一番しようがなやつて。

ミナヲ そがん事言うと？じゃあ、他人はどがんね？ろくな人おらんやろ？うちんオヤジでんだん役場^ん人間で、仕事ていうてん、毎日毎日、潮の満ち引きば見とるだけやろもん、そいが何の役に立つとつと？他人でんそうじゃなか？ネーミ姉さん^んとつと、うちもアサヨちゃん^んとつと、ハルおばさん^も、トラ兄ちゃん^も、誰か立派か人の一人でもおつと？

みんな ……。

ネフミ 婆ちゃんが言いよったとはさ、あんたが、そがんだした事無か人にもなれんてことじやないと？

道隆 ……潮の満ち引きを見るつて？

ネフミ こん辺りは、何か知らんけど潮ん満ち引きの暦^{こよみ}通りにならんとよ。

道隆 え、何で？

ネフミ さあ…海流とか？

道隆 あれつて月の引力が関係してるんでしょ？

ネフミ よう分からんけど、まあ、よそと違うし、ちゃんと測つとかにやいけん^とよ。棒ヶ削はほとんど海関係で生活しとるけんね。

道隆 ああ…。

ネフミ (ミナヲに) 大事か仕事よ！

カズクン、ネフミに抱きつく。

ネフミ どがんとしたと。

カズクン なんか、つらいのさ。

ウキサ 大丈夫さ、カズクン大丈夫。

カズクン うん。

ネフミ まあ、でも、婆ちゃん、ミナヲちゃんのこと好きやつたけんね。

アサヨ うん。

ミナヲ ……。

ネフミ 孫で男はあんただけやろもん。
ミナヲ ああ。

ネフミ やっぱ、麦山家の跡取りつて思つとつたつじやないと、あたしとかあんまり可愛がられた記憶なかもん。

アサヨ あたしもなかもん。

ミナヲ そおやろか？

アサヨ そら、可愛がられんことはなかけど、差別はあつたね。

道隆 ええー。

ネフミ まんざらでもなか？

ミナヲ 跡、取るつもりなかもん。

ネフミ ま、なくてもさ、婆ちゃんは無意識にそがん思つとつたとやつけん。

ミナヲ そがんして、変に期待ばかけたりすれば、ぐれたり、変な事件起こしたりするさ。

アサヨ ちよつと。

ミナヲ いやいや、お婆ちゃん子やつた人とか特にそがんならしかよ、引き籠つて、突然人殺したり。

アサヨ やめんね。

ネフミ こん人(道隆)、お婆ちゃん子です。

道隆 あはは…。

ミナヲ すんません…。

道隆 でも、僕は素直な性格でしたから、捻じ曲がることは…なかったです。

ミナヲ 僕も素直やけん。

アサヨ あんた捻じ曲がつとるやろ。

ミナヲ なんでえ。

アサヨ 曲がつとる、曲がつとる。

ネフミ うん、曲がつとる。

ウキサ あはははは…。

みんな ……。

ミナヲ あんさあ。

アサヨ 何？

ミナヲ 婆ちゃんのチムナア、ちゃんと探した方がよかつちやない？

みんな ああ…うん。

ミナヲ そしたらさ、ちゃんと計画的にしよーや。

ネフミ 計画的ねえ。

ミナヲ トラ兄ちゃん、降りてこんねー、チムナアんこと一緒に考えよ。

トラヲ ……。

ネフミ ほつとかんね。

アサヨ でん一応、専門家やけん、おった方がよかつちやない？

ミナヲ おいもそがん思うけど。

ネフミ あー、まあ、よかけど。

ウキサ ちよつと呼んでくつ（2階へ）。

みんな おお…。

アサヨ あがん見えてん、チムナアの事については、たいした人らしいですから。

道隆 あ…はい。

（2階）

トラヲ お、どがんしたんね。

ウキサ 一緒に婆ちゃんば、呼ば。

トラヲ あー、はいはい。

ウキサ カズクンも行くこ。

カズクン うん。

ネフミ ウキサちゃん、どがん？

ウキサ トラ兄ちゃんも行くこ。

ミナヲ どがんで？

ネフミ いや、最近は。

ミナヲ いや…、そがん特に変

わったことは。

ネフミ 仕事は？

ミナヲ あー、そがんとはちよつ

と。

ネフミ 相変わらず。

トラヲ トラ兄ちゃんは、行かれん

ウキサ とよ。 何で？

ミナヲ ま、そうだけど。

ネフミ 何かさ、変じゃなか？

ミナヲ 何が。

アサヨ ちよつと…。

ネフミ 進んだ？

ミナヲ あー、いや、昔っから、

あがんやけどね。

ウキサ 何で行かれんと？

トラヲ 何でかねー

カズクン （トラヲに）行くこ。

トラヲ ん？なんか？

カズクン 行くこ。

トラヲ 遊んで欲しかつか（と遊

ぶ）。

カズクン やめてけれー。

トラヲ ほれほれ（遊ぶ）。

ネフミ なんかき、遊んどらん？
ミナヲ うん。

カズクン 下に行こー

ウキサ、トラヲを思いっきり叩く。

ウキサ トラ兄ちゃん、やめんね。

トラヲ ああ、うん。

ウキサ カズクンも一緒に行こう
て。

トラヲ え？

カズクン 行こ。

道隆 ウキサちゃんは、普段は

何を？

ミナヲ 家事手伝い、ですかねえ。

トラヲ …行こかね。

トラヲ、ウキサ、カズクン、2階から降りてくる。

ネフミ おみごと。

ミナヲ (カズクンに) わいが連れて来たっか？

ウキサ (ニツコリ) カズクンが言うてくれたと。

みんな ほん。

トラヲ カズに説教されてしもた。

みんな あははは…。

ネフミ じゃあ、始めよ。

トラヲ ではでは、「チムナア呼び込み作戦会議」を始めます。
みんな はい。

ネフミ ぞーぞ。

トラヲ まずは方針ば決めようて思う。

みんな うんうん。

トラヲ ミナヲくんはどがん作戦がいいと思えますか。

ミナヲ おいはやっぱり、物真似作戦が。

ネフミ そがんと、あんただけしか出来んやろもん。

ミナヲ ヘタはヘタなりに、婆ちゃんも「そがんやったるか」て言うて出てくるかも…。

ネフミ ヘタでごめんね。

ミナヲ ああ、いや。

アサヨ やっぱり面白か話とか、楽しそうにしとったら「私も仲間に入れて」って来つとじゃ。

ネフミ でんネタン続かんやろ。

トラヲ 「ネフミと道隆物語」なら、いくらでも続くやろ。

ネフミ やめてて(嬉しそう)。

ミナヲ 続く続く。

道隆 やめましよう

トラヲ 第2話『こんにちは赤ちゃん』

道隆 ちよ、ちよつと！

ミナヲ あははは。

ネフミ おえくつ、はっ！もしかしたらあたし、赤ちゃんの出来たとやろか？

ミナヲ ガガーン。

トラヲ ショックでした。

道隆 ショックじゃないです、待望の赤ちゃんです。

ネフミ 嘘つき！

みんな お？

ネフミ オロオロしとったくせに！

道隆 オロオロはまあ…、オロオロはしたけど！

トラヲ 第3話『道隆の浮気』

道隆 してないですって。してないですよ。

ネフミ お洗濯をする私、ふふくん、ララ〜、おわっ！くっ口紅の跡！

道隆 ないって。ちよっ、ネフミ？

ネフミ もしかして、よそん家手紙にも「どういたしまして」て書とっ
とじゃなかやろか！

ミナヲ 書きました。

ネフミ ひー

道隆 おい！

トラヲ それが、道隆の手えだったのです。

道隆 な訳ないでしょう。

トラヲ 怒るネフミ！

ネフミ うおー、許さん！

トラヲ 追う、ネフミ！（ネフミ、追う）。

ミナヲ 助けてー（逃げる）。

トラヲ 逃げる道隆！

道隆 （拍手しながら）面白い、面白かったです、ね。

トラヲ 第4話『殺戮の森』

道隆 まだ、やるんですか。

ネフミ 道隆死ぬ！ザクッ（刀で切ってる）。

ミナヲ 無念じゃー（と、死ぬ）。

道隆 今、君、死ぬって言ったね。

ネフミ 言うたらんよ。

ミナヲ こがんことしよったら。

トラヲ 第5話、第6話、いくらでん続けらるっですよ。

道隆 死ぬって言った。

ネフミ 言うたらん。

道隆 言った。

ネフミ 言うたらん。

道隆 言った。

ネフミ 言うたらん。

道隆 言った。

ネフミ 言うたらん。

道隆 言った！

ネフミ 言うたよ。

道隆 ほ、ほーらあ。

ネフミ 何、本気になっつとつと、冗談で言うただけやろもん。

アサヨ あー…。

ミナヲ こがんことしよったら。

トラヲ いくらでん続けらるっですよ。

道隆 続けらるったつて。

ネフミ よかつじゃない、楽しかつやしネー。

ウキサ ネー。

アサヨ 楽しかけど、こいで婆ちゃん出てくるやろか？

みんな ン…。

ミナヲ やっぱ、物真似じゃない？

ネフミ こだわるね。

ミナヲ 今度んとは、違うとき。あんね『太っちょ探偵マコちゃん』の真
似で会話しよったら出てくるこたつ気のする。

ネフミ 出て来んやろ。

アサヨ でん、婆ちゃん、マコちゃん好きやつたし。

トラヲ マコちゃんのテレビは絶対忘れんやつたしね。

ミナヲ マコちゃんの真似ばしよったら、婆ちゃんが、マコちゃんのテレビのありよつと勘違いして…。

みんな 出てくる、おおー。

ミナヲ 「わたしの名前は逸興マコト。ババちやまはどこへ行かれたのちゆか？」

みんな あはははは。

ウキサ マコちゃんマコちゃん！

ネフミ うまかねえ。

アサヨ マコちゃん。

ミナヲ 「なーんてちよちゆか？」

道隆 マコちゃんって？

みんな えー？

トラヲ 知らんとですか？

ウキサ、「マコちゃん」の主題歌を歌い出す。
みんなも途中から加わり、大合唱。

♪わたし マコちゃん 太つちよの

わたし マコちゃん 探偵よ

洋服はピチピチでお腹が見えそう

突っ張りポーズでごあいさつ

ごっつあんでちゅー

さらさらさらと解決よ

3時のおやつは おはぎなの

歌い終わって、皆、嬉しそう。

道隆 え？え？

ネフミ 4才の太つちよ探偵が、迷宮入りの事件ば解決していくって言う

アニメんあつとさ。

道隆 そんなに面白いの？

皆、それぞれ「マコちゃん」の魅力を語っていると…。

ネフミ 面白くなか！

道隆 は？

トラヲ あつ、思い出した。

道隆 え？

トラヲ こい昔、近所のガキによーいじめられよつたつですよ。「マコちゃんて言われたー」て言うて、よー泣いて帰つてきよつたつですよ。

道隆 それって…。

ミナヲ ネーミねーちゃんは昔、まん丸やつたつですよ。

ネフミ 言わんでよか！

トラヲ 今もまん丸やつかね。

道隆 あはははは…。

ネフミ なんね、(道隆に)なん笑いよつとね。

道隆 いや…。

ネフミ こいはあんたん子の入つとつと。

アサヨ 「ミナヲ君とトラ兄ちゃんは、ネフミさんに謝つた方がいいのではない

でちゆか」

ウキサ 「でちゆかでちゆ！」

カズクン オホー！

ミナヲ 「どうちてでちゆか」

アサヨ 「どうちてもでちゆ」

トラヲ 「いやでちゆ」

アサヨ 「あやまりなさいちゆう」

ミナヲ 「ピカチュウ」

ネフミ 関係なかやろ。

道隆 「皆さんお取り込み、ちゆう…」

ミナヲ・トラヲ うまい！

道隆 いやー、急に閃いちゃって（ちよつといい気になる）。

ネフミ あんたやっぱ、やっぱバカやろ。

道隆 え、なに。

ネフミ やめよ。

みんな えっ？

ミナヲ やめるのでちゆか？

ネフミ 駄目よ、こがんと。

ミナヲ まだ事件は解決してないのでちゆよ。

ネフミ 面白かけど、違う気のする。

アサヨ うん、まあ。

トラヲ ま、確かに。

ミナヲ そーやろか？

道隆 コンセプトはいいような気がしたんですけどね。

アサヨ 裏付けていうか、出てくる理由の弱かごたつ。

ネフミ うん。

ミナヲ よかよ、別にやめてん。どうせ思い付き作戦やつけん。

道隆 こう、出てくるっていうのは、この世に未練とか、心残りがあって、

残っちゃってて、出て来たりするんですよ？

ネフミ うん。

トラヲ そんな通りです。

ミナヲ おいの作戦は素直じゃなかったのかな。

アサヨ 捻じ曲がっるとるけんね。

ミナヲ うるさか。

トラヲ ほんなら、原点に返って。

道隆 お婆さんの心残りを。

トラヲ 婆さんの心残りばツツク作戦に変えましょう。

アサヨ うん。

ミナヲ いいと思う。

ネフミ どがんすつと？

トラヲ 婆さんの心配するごたつコトばそれぞれ告白する。

みんな ええー。

トラヲ もしくは、暴露し合う。

みんな ええー。

ネフミ あたし一番不利やかね。

道隆 え。

ネフミ あ。

道隆 え、何かマズイようなことがあるの？

ネフミ まーほら、なかなか子供ん出来んやったりとか。

道隆 あ、まあ、それについてはいろいろと心配かけて、すいませんでした。

アサヨ あやまることないですよ。

道隆 お婆さん、なにか言ってたんでしょ？

トラヲ あー、「ネフミは、うまずめやったんかね」とかね。

道隆 うまずめ？

トラヲ 子どもん産めん女ばそがん言うでしよ。

アサヨ 今どき、うまずめとか言わんやろ。

ネフミ 古か考えやつけんね。

トラヲ いい歳こいて結婚もせんで、したらしたで子どもできんで。

アサヨ ちよつ、トラ兄ちゃん。

トラヲ 麦山ん恥さらして、言いよつたもんね。

ミナヲ 婆ちゃんも棒ヶ削も古か考えですから、そがん思うとは仕方なかなですよ。

トラヲ ま、おいはそがん思わんですよ、あんまり人んこと言えたもんじやなから。

ミナヲ いい歳こいて結婚もしとらんしね。
自分でもよーわかっつとるやつかね。

トラヲ ばってん、おいはあんまり暴露されて困る事とか無かけんね。

ネフミ あたしも別に困る事とかなかよ。

アサヨ あ、あたし、トラ兄ちゃんも知らんごたつ事、知つとるかもしれん。

トラヲ え？なんの話？

ネフミ よーし！アサちゃん、言うてやらんね。

ミナヲ さあ、大暴露大会、早速始まっているもようです。

トラヲ 何？

アサヨ トラ兄ちゃんの付き合つとる教え子で、いきしま壱岐島さんという子やろ。

トラヲ な、お…。

アサヨ あたしの同級生で、壱岐島さんて…。

トラヲ ああー！…ちよつと（と、アサヨをどこかへ連れて行こうとする）。

ミナヲ まあまあ（引き留めて）。

ネフミ どこ行きよつとね。

道隆 聞きましよう。

トラヲ、ミナヲに座らせられる。

アサヨ あたしん同級生で、壱岐島さんておつとやつけど、そん子ん悪か噂ば時々聞くとさ。

ネフミ 何て？

アサヨ 行きよつた塾の先生ばたぶらかして、後でタチの悪か親ん出てきて、なんぐせ難癖つけるて。

トラヲ え？

ミナヲ で？

アサヨ 高校生の妹は体育教師ばたぶらかしとるて。

トラヲ 噂やろ。

アサヨ そうよ、トラ兄ちゃん、噂になつとるとよ！

ネフミ （トラヲに）本当ね？

トラヲ 嘘たい。

アサヨ （トラヲに）そん子、そがんふうには見えん子やろ。

トラヲ うん。

アサヨ 純朴そうな田舎の子で。

トラヲ うん。

ミナヲ ばってん、トラ兄ちゃん、そん子に手だしとらんとやろ。

トラヲ うん…つていうか、出されんやつたとやけど。

ミナヲ そんなら、よかるもん。

アサヨ 何もしとらんでも、後で「ひどいことされた」て言うとき。

トラヲ ……。

ミナヲ え、何か言われたりしとるん？

トラヲ あ、いや…。

ネフミ 高校生とかに騙されてから。

トラヲ 騙されとらんと。

ネフミ アサちゃんが言うたごて、世間の人はみーんな知つとるとよ。

トラヲ そがんと知らんて、あん子はそがん子じやなか。

みんな ……（駄目だ…、まわりの見えんことなつとる）…。

トラヲ、カズクンのトコに行つてナデナデ。

トラヲ しょうがなかやろもんねえ。

カズクン あ、そこそこ、かいて、そこ、うんそこ。

トラヲ なんか、気持ちよかつか。

カズクン ギョーヘー。

トラヲ よかなー、ワイは。

ネフミ 何たそがれとつとね。

トラヲ …カズと遊びよるだけやん。

ミナヲ でもさ、ただん噂やろ。

アサヨ あーまあね、本当は違うかも知れんけんね。

トラヲ そうそう。

ネフミ ふん、身から出た錆やろ。

ミナヲ ネーミ姉ちゃん！

ネフミ 何かむかつくとさ。

トラヲ 自分の事は棚にあげてから。

ネフミ なんね！何が言いたかとね！

トラヲ オイはわいんごたつ恥さらしじゃなか。

ネフミ なんね。

トラヲ オイは恥ずかしか事は何もしとらんもん。

ネフミ どうやろか。

トラヲ わいは昔、いろいろあつたとやろう！

ネフミ ……。

トラヲ もめて、騒いで！

アサヨ トラ兄ちゃん！

ミナヲ もお、よかろ。

トラヲ そいで捨てられて、居心地ん悪くなつて、自分だけさつさと町ん方に逃げて！

ウキサ アハハハハハハハハハハ（高らかに笑う）

カズクン アハハハハハハハハハハ（つられて笑う）

みんな ?

トラヲ 逃げた本人は良かったかもしれんけど、残った麦山んモンは、

カズクン ザーっと白か目で見られよつたつぞ！

ウキサ なんかおかしきみたい。

うん。

道隆 (ネフミに) 何があつたのか知らないけど、悪いんなら、謝りなさい。

ネフミ ……。

道隆 迷惑かけたんなら。

ネフミ (カズクンに) ミナヲちゃんじゃなけれど、麦山の人間はロクなと

んおらんねえ。

カズクン おお？

トラヲ ワイも含めてな。

ネフミ ウチん親がロクな人間じゃなかつたけんね。

道隆 そんな言い方はない(んじやない?)

ネフミ 娘ば一人おいて蒸発するごたつ親はロクな親じゃなやろ！

ミナヲ いろいろあつたとやろけんさあ。

ネフミ あんたんとこのスゲおいちちゃんが一番まともかねえ、おもしろく

はなけれど、一番まともか。

ミナヲ ああ、そがんかな。

ネフミ 結婚の時も安心して親ん代わり、頼めたしね。それ以外は麦山の

人間は皆すかん。蒸発するモン、変態教師、就職せんモンに、頭

んイカレタ娘もおつ。

トラヲ おい！

ネフミ まわりんモンは、皆言いよるやろ。麦山ん家には何か気持ちん悪

か頭の(おかしか)。

道隆、軽くビンタ。

みんな あ、え…。

道隆 それは、違うでしよ。

ネフミ ……。

道隆 まわりのモンが何か言いよつても、麦山の人が言つたら駄目で

しよ。

ネフミ ……。

トラヲ それに、あいは自分の所為じやなかやろ。
道隆 すいません、こいつ頭に血いのぼるとまわりが見えんようになる
んです。

カズクン へんなの

ウキサ 何が？

カズクン 何かが。

ウキサ へんなのー。

みんな ……。

ネフミ (小さく) ごめんなさい。

和くん(幸島和也)、「棒ヶ削の子守歌」を歌いながら登場。
裏声を使ったその歌は、ちよっと異様に響く。
途中からウキサも加わる。

♪ あんだーぎやあ棒ヶ削の

あんだーぎやあ棒ヶ削の

海の水 育ちよ

どこの海やら どこの海やら

赤子ウミばよ ヒツバラシヨ

はよ寝ろ 泣かんで アラランタイ

鱧わらわしん海うみん 青蟹あおがにどんの 呼びん来らるたい

ミナヲ おつす。

和くん おつす。(みんなに) どーもどーも。

みんな こんにちは…(こんばんは)。

和くん やっぱ、マズかった？

ミナヲ いや、今は、よか。

みんな ……。

和くん 外でおいちちゃんに会あうて聞いたとばってん、婆ちゃん亡くなった
て？

ミナヲ ああうん、こい。

和くん おあ、(手を合わせる) チムナアんおらんことなつたとか？

ミナヲ おん、「お宮さん」に運べんとき。

和くん うーごと(大変)やろ。

ミナヲ あ(みんなに) 友達の和くんです。

みんな え？は？

和くん 大学が一緒だったんです。一応もう社会人ですけど。

道隆 いや。

和くん え。

ネフミ カズ…。

ミナヲ くん。

道隆・ネフミ え？

和くん え？

ミナヲ 人間の。

みんな にんげんの…？

トラヲ あ、名前は？

和くん あ、幸島こうじま和也ていいます。

みんな ああ…、そいでね。

和くん あ、猫似のカズと。

ネフミ 何か関係あつと？

ミナヲ カズクンの名付け親。

和くん じゃなかつて

ミナヲ モデルになつとるとき。

和くん モデルで言うとか？

ネフミ 分かん。

ミナヲ コツチん和くんが、前、ウチにしょっちゅう来よつたつですよ。

和くん 飯は食わしてもらたりとか。

ミナヲ そんな時に、やっぱり猫似のカズもウチに出入りすることになって。
 和くん 何か似とったつですよ。
 ミナヲ 顔の。
 和くん そいは違うやろ。
 ウキサ 似とらん！
 みんな ……。
 和くん 生活ん似とったつですよ。フラッて来て飯食うて、どっか行くて
 というパターンなの。
 ミナヲ そんなで、「わい、和くんのごたつねえ」んごたつコト言いよつたら、
 いつん間にか、猫似のカズクンの方が定着してしもうとつですよ。
 道隆 さっきの歌は？
 ネフミ 子守歌。
 和くん ないどん、仏さんにも歌うとです。
 道隆 ああ…。
 トヲヲ 安らかん眠れて。
 道隆 なるほど。
 和くん あ、カズは？もういつちよの。
 ミナヲ 上じやなか？（*この時、カズクンは上に行っているコト）
 和くん （上に行こうとして、アサヨに）どーも。
 アサヨ こんにちは…。
 和くん 覚えとらん？こん前大学で
 アサヨ ああ、はい。
 和くん アサヨちゃん。
 アサヨ ええ…はい。
 和くん （ミナヲに）やる？
 ミナヲ ああ。
 和くん 結婚すつと？

みんな ええ？
 和くん 違うた？
 ミナヲ 違う違う。
 和くん んにや、葬式ん彼女ば連れて来とつけん、そがんで思うたとばつ
 てん。
 ミナヲ （さへぎつて）あああ！
 和くん ね？
 ミナヲ ちよつと。

と、言つて、和くんを2階へ連れていく。

ネフミ 何ね？
 アサヨ あー、いや…。

（2階）

和くん 何かマズかった？
 ミナヲ うん、マズか。
 和くん なして？
 ミナヲ あい、いとこさ。
 和くん ないどん、前は「俺のおな
 ごやつけん」て言いよつた
 （ぼってん…）。
 ミナヲ やけん、いとこで、彼女さ。
 和くん お…。そら…ごーぎマズか
 ろ。
 ミナヲ ごーぎマズかつさ。
 和くん カズクン、そろりと下に降りている。
 和くん すんまつしえん。
 ミナヲ はあ…。

トラヲ どころしたとか、カズ：
お？

カズクン ……。

トラヲ 追い出されたっか？

カズクン ……。

トラヲ ここはオレン場所て、言
うてやれ。

カズクン 何かオモロマンでちゅー。

ネフミ ほら、コツチ来んね。

ウキサ こっからがまーだ、おも
しろかったい

カズクン ふーん（2階へ移動）。

みんな 何？

ミナヲ あー、どころしよかなー

和くん そうね…。

カズクン来る。

ミナヲ なあカズ、どころしよか
ねえ。

和くん なるようにしかならんよ
ね。

カズクン なんのこっちゃ。

アサヨ あたしき、ミナヲちゃんと付き合っとなつたさ。

道隆 え？

トラヲ あ、そーね。

ネフミ 付き合っとなつたって、過去完了形？終わっとなつた？

アサヨ あたしん中では、ほぼ終わっとなつた。

トラヲ ふーん、何で？

アサヨ え？

トラヲ 何で終わっとなつた？

ネフミ その前に何で付き合っとなつたかじゃないと？

トラヲ ああ。

道隆 うん。

ネフミ 何で？

アサヨ ええ…？

トラヲ 大学に行ったら、ミナヲんおつたさね。

アサヨ うん…、ウチんトコとミナヲちゃんのトコ、あんまり交流なかや
ろ？

ネフミ うん、あれ、何で？

アサヨ スゲおいちやんと、ウチん親、何か…。

トラヲ 兄弟で仲悪かつさねえ。

アサヨ だけん、いとこて言うてん、ちよつと他人やつたさ。

ネフミ ほんなら、あい？久しぶりに会った同級生んこて。

アサヨ ああうん。

トラヲ 「何ねこん大学来たとなねー」んごたつ。

ジョニイとヒロポン、この辺の会話の最中、外で暴れている。
道隆、何事かと様子を見に行ったり。

アサヨ そうそう。

ネフミ そいで仲良くなつて。

アサヨ まあ…。

トラヲ あんミナヲは、いつちよ前にワンルーム借りとつけんね。

ネフミ え、そがん？

トラヲ うん。

ネフミ 何で？

アサヨ 大学で坂根さかねの方にあるやろ？

ネフミ うん。

アサヨ こっから通学しよったら片道2時間かかるっさ。

ネフミ あー、でも、あんた通いよったやろ？

アサヨ うん。

トラヲ あい、棒ヶ削におつたら就職活動できんて言うて、坂根に部屋ば借りたったい。

ネフミ そいで卒業して、就職せんまんまやろ？

トラヲ そうよ、無職でワングルムよ。

ネフミ どがんもならんねえ…、あんた！入り浸つとるとじゃなかとね？

アサヨ びたつとらんて。

ネフミ ああーん（ふーん）。

アサヨ …お互いいとこ同士やつけん、まさか付き合わんやろて、思とつたとやけどね。

ネフミ それで？

アサヨ え？

ネフミ 何でやめると？

アサヨ やっぱ、イトコ同士で良くなかねーっていうとあるし…なんとなく…。

トラヲ あい、働こうって気持ちん、ゼロやけんなあ。

アサヨ そいもあるかも。

ネフミ え？もしかして、結婚するつもりやったと？

みんな ほおー。

アサヨ そいは、なocate！

ウキサ よろしくお願いいたします。

アサヨ いやいやいや、ホント違うて。

ネフミ でん、イトコ同士やったら良くなかとか考えるとは、少しは結婚ば考えとつたけんやろもん。

アサヨ ……。

トラヲ (棺桶くわんぼくに向かって) 母さん、喜ばんね、目出度か話んあるよ。

アサヨ なかて。

トラヲ ミナヲとアサヨちゃんが、結婚するて。

アサヨ (棺桶くわんぼくに) 嘘よー

ネフミ 婆ちゃんの前で結婚式しよか。

トラヲ・道隆 おー。

アサヨ ちよつ、何そい！

ネフミ 偽装結婚式さ

アサヨ いやー、もー。

ネフミ 偽装やけんよかやろもん。

アサヨ いやて！

トラヲ ミナヲくーん、ミナヲくーん、ちよつと降りて来なさい。

アサヨ ちよ、ちよつと。

そこにヒロポンがお土産を持ってやって来る。

ヒロポン (カズクンに何か食べものを渡しながら) この家にもう長いん？

トラヲ 何やこいつ。

道隆 男友達？

ヒロポン みんな仲良さそうやねえ。

カズクン ああ、そだね。

ヒロポン オレ、今、住むとこ無いんよお。

カズクン 寝泊まりは？

ヒロポン 基本、野宿よ。

カズクン 大変だね。

ウキサ あんた帰り。

ヒロポン (泣きながら) オレも本当は家族と、母親と一緒に住みたいやん？

カズクン ええーつと：。
ウキサ もうあんた帰らんね！
ネフミ え？

そこにナガサ坊とジョニーもやって来て。

ジョニー 嘘つけコラあ。

ヒロポン 本当ちや、オレら家族なんよ。

ナガサ坊 ならば、証拠見せるがよい。

ヒロポン 証拠とかある訳なからうが。

ジョニー このチンピラが。

ヒロポン 薄っすら残つとるんよ、幼い頃の記憶が。小ちゃかったけど母親の顔は覚えとるもんやろ。

ナガサ坊 失せろ、流れ者め。

ジョニー 弱みに付け込んで、たかりやがって。

カズクン ほんとうかも知れん。

ジョニー ええ？

ウキサ 帰って！

ナガサ坊 連れて行くぞ。

ジョニー はい。

ヒロポン 離せちや、何しよるんかちや、ちゃんとカズクンと話させろちや。

ナガサ坊とジョニーがヒロポンを捕まえて、連れ去る。
ミナヲ、呼ばれた気もするし騒がしいし、下に降りてくる。

ミナヲ 呼んだ？何か騒いでなかった？

ネフミ 今から、ミナヲちゃんとアサヨちゃんの結婚式をします。

ミナヲ はい？

アサヨ 偽装結婚式で。

ミナヲ 何そい？

トラヲ 婆さんのチムナアば呼び戻す最後の作戦たい。

ミナヲ でん結婚はなかやろ。

ネフミ 逃げると？

ミナヲ いーや、心の準備でもんの。

ネフミ 子供ん出来たら、準備しとる場合じゃなかよ！ね！

道隆 おお！何かもう、気持ちとか抜きで入籍よ、理屈抜きで書類書いて提出よ。

みんな ほおー。

トラヲ さすが実感こもってますよね。

道隆 いえいえ。

ネフミ こがん時に逃げんのが男よ、ね！

アサヨ そうよ！

ミナヲ そうかなあ。

アサヨ ほらね。

ミナヲ 何？ほらねって。

アサヨ 何でも、はっきりせんやろ！

トラヲ ビシツと決めんば！

ミナヲ え、あ、じゃあ、まあ、偽装て：：ことだったら。

トラヲ よし！

ミナヲ でもさ、イトコ同士って結婚できると？

道隆 出来ますよ。

ミナヲ え？

道隆 三親等内はできませんけど。

ミナヲ ああ：え？

道隆 親だと一親等、兄弟だと二親等って、家系図とか辿れば分かるんですけどね。

トラヲ イトコはOKなんでしょ？

道隆 OKです。

ネフミ 大丈夫やつかね。

ミナヲ うーん。

道隆 よかったですね。

ミナヲ ー。

ネフミ それでは、ただいまより麦山両家によります、結婚の儀を執り行
わさせていただきます。なお、式は霊前式とさせていただきます。
新郎新婦、並ばんね、(皆で2人を並ばせる)では、お2人より「結
婚の誓い」をお願いします。

ミナヲ え？

トラヲ 何でんよかけん、言え。

ミナヲ まだ誓つたらんのに、何で誓わないけんの。

トラヲ 私、麦山ミナヲは。

ミナヲ :私、麦山ミナヲは。

トラヲ まずは、就職することを誓います。

ミナヲ え？

トラヲ 言えて。

ミナヲ 何でそがんと誓わにやいけんと。

ネフミ 就職もせんで、結婚できると思つとると？

ミナヲ だけん、結婚とかせんで言いよるやかね。

ネフミ 他の人は、ちゃんどどつか就職探しとるやろ？あんたがダラダ
ラしよる間に、さっきの友達とかもちゃんとしよるとやけん。

ミナヲ あいはなーんもしらんよ、親が電気屋やけん、ほら、コージマ
電器であつたい。

トラヲ 2割3割当たり前？

ネフミ 家電のコージマ？

ミナヲ あいつ、その長男やけんね。

みんな なるほど…。

ミナヲ 黙つとっても働き口はあるとばい。

ネフミ あんたは何もなかけん、さっさせにやつまらんやろ。

トラヲ まあまあまあ、どうせ偽装結婚やけん、形だけ誓つとかんね。

ミナヲ あー。

トラヲ 就職することを。

ミナヲ 就職することを。

トラヲ 誓います。

ミナヲ 誓うかもしれません。

みんな (舌打ち)

アサヨ 誓つたことにして先に行きましょ。

トラヲ はいはい、えー私、麦山ミナヲと。

ミナヲ まだあつと？

トラヲ これが最後やけ。

ミナヲ :私、麦山ミナヲと。

アサヨ 麦山アサヨは。

トラヲ 祖母、麦山フラの霊前にて。

ミナヲ 祖母、麦山フラの霊前にて。

トラヲ 永遠の愛を誓います。

ミナヲ えいえんて、永遠とかそがん。

トラヲ 言わんか。

ミナヲ はあ…(やけくそに) 永遠の愛を！

アサヨ 誓います

ネフミ はい、おめでとうございます

皆さん、拍手。

ミナヲ はあ、どうも

ネフミ こいで、晴れてお2人は夫婦となりました。

ミナヲ えらい簡単かね。

ネフミ 要は気持ちです。

アサヨ なんか、盛り下がつとるし。

ネフミ この人数やけん仕方なかやろもん。

道隆 せめてね、ケーキとかお花とかでもあれば。

みんな うん？

トラヲ 花ならあるやん！

ミナヲ ホント、ホント（と言って棺桶を開けようとする）。

アサヨ いやーもー

ネフミ もお！よかて！

ミナヲ 嘘て！

ネフミ もお！（男どもに）ちゃんとして下さい！…では、ここで新郎新婦の叔父様にあたります、麦山トラヲさんに「お祝いの言葉」をいただきたいと思えます（皆、拍手）。

トラヲ えー、ご紹介に預かりました麦山トラヲです。あー、ミナヲくん、

アサヨさん、結婚おめでとう！（新郎新婦、照れながらも会釈）

今日は、お2人に夫婦生活をしていく上で、是非大切にしていた
いただきたい事を教えておきたいと思えます。えー、その大切にして
いただきたいというものは「3つの袋」であります。

道隆 きましたよ、定番、3つの袋！

トラヲ 1つめの袋は給料袋、2つめは堪忍袋、そして3つめの袋…。

道隆 皆さん一緒に。

トラヲ・道隆 金、玉ぶくろでありまーす！

ミナヲ ぎやははははは…（バカな笑い）。

ネフミ（呆れて）ありがとうございますー。

みんな拍手。
和くん、降りてくる。

和くん あ、何か取り込み中？

ミナヲ ああ、うん

ネフミ ではここで、新郎のご友人を代表いたしまして…和くんにお祝いの言葉をいただきたいと思えます。

和くん ええ？

ネフミ お願いします

和くん あ、え？ 結婚すつと？

ミナヲ ああ、うん、偽装やつけど。

和くん 偽装？ あー、上でカズケン何か変かとですけど。

トラヲ まあ、後で。

ミナヲ すまん。

和くん はい、えー、新郎のミナヲくんとは小・中・高、そして大学と、ずーつと一緒でして…、えー、とは言うてもオイン方が一コ上で、近所に住んどつたもんで…こま頃からよー遊びよつたですけど…。

んーつと…、あ、では、今日は、お2人に結婚後は、是非大切に

してもらいたい袋の話を…。

あー。

和くん え？

ネフミ それ、もうやりました。

トラヲ おいが。

和くん あ、なるほど…、えー、そんなら、あえてここで新郎ミナヲくんの欠点を挙げさせていただきます。

ミナヲ なんて！

和くん え、彼の最大の欠点は「優柔不断」で、あります。

トラヲ そんな通り！

和くん これはもう学生の話なんですけど、学食でお昼ば食ぶつ時、

A定食にしようか、B定食にしようか、カレーセットにしようか、

カレーセットにすんなら卵ば付くつか付けんかで、10分以上も悩んだりすつとです。

みんな あはは…。

ミナヲ 別によかやるもん。

和くん ないどん、ないどん！そんなミナヲくんがフリーターの身でありながら結婚ば決意したっていうのは、よほど新婦のアサヨさんの魅力に参ってしもたのかなあ、と思いました。

みんな (笑ったり茶化したり、それぞれの反応) 違うて。

ミナヲ

和くん え、何？ そうでんなかと？ んんー(笑) あがん言うとりますが、あつちやこつちやいちやついとるとこ、おい見とりますけん。

ミナヲ もお、言わんでよかて。

和くん まあ、お2人とも、末永ごう、お幸せに。

ネフミ ありがとうございます。

道隆 じゃあチューをね、ココでは非…。

と、皆が「チュー」コールを始める。
困惑するミナヲとアサヨ…。チューをせざるを得ない雰囲気になったところに婆ちゃんが乗り移ったカズクンが、割って入る。

カズクン うちは、こん結婚には賛成できません！

みんな ん？

トラヲ ほら、こつちこい。

アサヨ どがんとしたと？

ミナヲ カズ、こつち来とけ。

ネフミ カズクン。

カズクン あんたたちの結婚は許さんて言いよるやろーもん！

道隆 ん？スピーチしたいの？

カズクン だいいち、うちんおらんトコで決めるて、どがんとこね！

トラヲ 何、興奮しとつとか。

ウキサ 違う！

みんな ん？

ウキサ バ！婆ちゃんの来とる！

みんな ええ！？

カズクン ミナヲ！あんたどがんともりね！

ネフミ 何か言いよる…。

カズクン アサヨ！あんたもたい！

ミナヲ 本当に婆ちゃん？

カズクン そーたい。

みんな あ！

アサヨ うなづいた！

ネフミ こつちん話は分かつとるごたつ。

ミナヲ トラ兄ちゃん、どがんなつとつと？

トラヲ 間違いなか、カズクンの中に婆さんのチムナア入つとんね。

カズクン だいたい、いとこ同士で結婚とか恥ずかしゅうして、とてもよそ様にや言えんやろもん！

ミナヲ 何言つとるか全然分からんとん。

ネフミ スゲおいちゃん、呼んだ方がよかつちやない？

ミナヲ ああ。

和くん あ、オイ、行つて来ましようか？

ミナヲ よか？

和くん うん、本家ん方やろか？

ミナヲ たぶん。

和くん なるー。

ネフミ すいませんねえ。

和くん、去る。

カズクン 誰か何か言わんね！

ウキサ バーちゃん、怒つとるごた。

みんな ええー。

道隆 呼び寄せるのは成功したのに。

トラヲ あんまり良くなかねえ。

ネフミ ちよつとお、どがんすつと。

ミナヲ トヲ兄ちゃん。

トラヲ ……。

カズクン みんな、あたしんことば無視しとる。

アサヨ トヲ兄ちゃん。

トラヲ とりあえず、何て言いよるか分かる為に…、婆さんには…誰か、人間に移つてもらう。

ミナヲ 移るて、婆ちゃんのチムナア？

トラヲ うん

みんな 誰かて…誰に？

トラヲ 血の繋がりのあるモンな、後で抜けんことなる恐れのあるけん…。

ネフミ 血の繋がりの無か人…て言うたら…（皆、道隆を見る）。

道隆 え？ボ、ボクですか？

トラヲ はよ捕まえろ！

みんな はい！

道隆 ええー！！

みんな、一斉に押さえにはいる（ウキサはどこかへ駆けていく）。

道隆 やめてやめてやめてやめて…。

ネフミ ちよつとの辛抱やけん。

道隆 痛いいや、痛いいや、痛いいや。

トラヲ・ミナヲ 痛くなか痛くなかよー（と言いながら「猿ぐつわ」を）。

道隆 んんー（何か唸っている）。

トラヲ へたに動くと、取り返しのつかんことなりますよ。

道隆 んんー？

トラヲ アサちゃんは、お線香ば用意して。

アサヨ はい（台所へ行こうとする）。

トラヲ はい、ちよつとしやがんで。

ウキサ、棒ヶ削の子守り歌を歌いながら、台所から火のついた線香を持ってくる。皆もその子守歌を歌う。

アサヨは線香を受け取り、煙でカズクン（というか婆ちゃん）を誘導。カズクン、フラフラになる。

これらの様子を、ジョニイ、ヒロポン、ナガサ坊らが遠巻きに見ている。

トラヲ、ミナヲ、アサヨ…とカズクンに続いて道隆の周りを回りはじめる（ネフミは道隆の横で道隆を押さえている）。

皆、フラフラになったカズクンを捕まえ、道隆のお尻とカズクンのお尻をくっつける。

道隆の顔に煙を持つてくる。むせる道隆。やがてカズクンの上半身がダラリとなり、カズクン倒れる。

この瞬間、カズクンの肛門から、道隆の肛門へとチムナアが移動。道隆の体の中を何が上がってくる様子…。

道隆は白目をむき、チムナアが道隆の頭に到達したことを知る。

道隆（婆ちゃん）は自分で猿ぐつわを外す。ウキサ、婆ちゃんを察知して「婆ちゃんの座椅子」を用意。

*以降、道隆を「婆ちゃん」と表記する。

婆ちゃん（ウキサに）ありがと。よっこいしょ（座る）…ま、あんたたちも座りなへ。

皆、座る。

ジョニイ、ヒロポン、ナガサ坊らは隠れて事の成り行きを見守る。

ミナヲ …婆ちゃん？

婆ちゃん なんね。

ミナヲ いや…。

婆ちゃん うちに出てこられたら困つとね。

ミナヲ んなことなかよ。

婆ちゃん 人殺しんくせに。

みんな は？
ミナヲ 何ば言い出すと？
婆ちゃん うちば殺したろーもん！
みんな ええー？
ミナヲ 何ねそい。
婆ちゃん しらばつくれてから。
ミナヲ 知らんて。
ネフミ あんた、何したとね？
ミナヲ 何もしとらんて。
婆ちゃん 人殺し！
トラヲ ミナヲわいは…。
ミナヲ 本当に知らんて。
婆ちゃん 嘘！
ミナヲ 本当て！
アサヨ ミナヲちゃん、どがんなつとつと？
ミナヲ 分からんて。
婆ちゃん おととい、あんた、うちにアメ玉くれたやろ。
ミナヲ ああ、あんデカかニツキ飴。
婆ちゃん 何であがんとくれたとね。
ミナヲ え…、他人ひとんもろうたとけど、めっちゃでかかし、おい、ニツキ
好かんけん…、え、だつて婆ちゃん、ニツキ好いとつたやろ？
婆ちゃん うん、うちニツキ好きよ。ばつてん、うちはあんアメ玉は喉に詰
まらせて死んだとよ。
みんな ええー！
ネフミ 心不全つて聞いたつたけど。
婆ちゃん 呼吸困難で心不全ば引き起こしたつた。
みんな へーえ…。

トラヲ わいが殺しとるやろ！
ミナヲ 知らんて！
婆ちゃん しかも計画的犯罪たい！
みんな ええ？
ミナヲ どこがね！何でアメ玉、喉に入れるとね！舌ん上で転がしとかん
ね！
婆ちゃん そがんムキにならんでもよかやろ、どうせ長くはなか命で思うとつ
たけん、怨んで出て来たりとかはせんよ。
ミナヲ 出て来とるやつかね！
婆ちゃん …おお！（ホントや！）
トラヲ なんボケとつとね！
婆ちゃん あ、思い出した。
みんな ん？
婆ちゃん ミナヲとアサヨ。
ミナヲ は…。
アサヨ はい…？
婆ちゃん こつちに来なへ。
ミナヲ・アサヨ はい…（婆ちゃんの傍に行く）。
婆ちゃん 座りなへ。
ミナヲ・アサヨ （恐る恐る…座る）。
婆ちゃん 結婚てなんね。
アサヨ それは…。
ミナヲ あい、嘘やつけん。
婆ちゃん 嘘て。
アサヨ ゴツコさ、お遊び、結婚ゴツコ。
婆ちゃん ふーん、そいで、相変わらず、いちやついとつとやろ？
みんな ん？

ミナヲ・アサヨ いや…。

婆ちゃん 前に、こん上の部屋で、2人でいちやついとったつき。

アサヨ いちやつととか、そがん…。

婆ちゃん そいで、しかり飛ばしてやっただたい、ね！

ミナヲ ああ、うん。

婆ちゃん うちがおったら結婚できんて言うたって、殺さんでもよかろーに。

ミナヲ そいは違うて。

ネフミ あんた共犯じゃなかやるね。

アサヨ 違うて！

婆ちゃん 邪魔者は消される運命にあつとき。

ミナヲ (皆に) ちよつ、信じんで下さーい。

婆ちゃん もう過ぎたことやけん、あんまり気にしなさんな。

ミナヲ 婆ちゃんが気にしとるとやる！

婆ちゃん ん？

トラヲ ボケとる。

婆ちゃん まあ、結婚はさて置いて、付き合とるのもよーなかよ。

アサヨ 何で？

婆ちゃん イトコ同士とか恥ずかしかやるもん。

ミナヲ 恥ずかしかて？

アサヨ 何で、何が恥ずかしかと？

婆ちゃん 恥ずかしかけん、恥ずかしかつさ。

アサヨ だけん、何でそがんね？

婆ちゃん 何でんたい。

アサヨ 全然答えとらんやん。

婆ちゃん 答えとるやつかね。

ミナヲ もー、よかやるもん

アサヨ でん私、もうミナヲちゃんと別れるけん。

ミナヲ ええ？

ネフミ さつき言いよったよ。

トラヲ うん。

ミナヲ え、ちよつ、そい、聞いとらんよ。

アサヨ だつてミナヲちゃんには言うとらんもん。

ミナヲ いきなり何ね。

アサヨ なんかもう愛想つかしたつき。

ミナヲ そしたら、もう、好かんことなつたとやるーか。

アサヨ 好きけど、好かん。

ミナヲ 好きなら、別れんでもよかやるもん。

アサヨ 好かんもん。

ミナヲ おいは別れるつもりはなかけんね。

アサヨ 別れるもん。

ミナヲ そんなでも、付きまとつてやるけん。

アサヨ あたし、しつこか男は好かんど！

婆ちゃん あー、あのね、そんなら、もおよかよ、別れるなら婆ちゃん文句

はなかよ。

みんな (顔を見合わせる)。

トラヲ そしたら母さん、そろそろ元に戻つて、おくり島に行こうか。

アサヨ やっぱ別れん。

みんな はあ？

アサヨ やっぱり、別れません。

ネフミ 何ココロ変えよつとね。

アサヨ 婆ちゃんに許可もらつとるごたつて好かん。

ミナヲ あ、おいも好かん。

アサヨ 別れん。

ミナヲ 別れん。

婆ちゃん そしたら、うちも、いつまででん道隆さんの中におろうかね。
みんな うあ！

ネフミ そ、そいはやめて、婆ちゃん、そいはやめてー。

婆ちゃん やめん。

ネフミ 道隆さんば返して。

婆ちゃん そいは、うちん決めることじゃなかもん、そこん2人がどがんするかで決まってくるやろーもん。

ミナヲ・アサヨ うあ…。

ミナヲ きたなかねー。

アサヨ 人質取るとか！

婆ちゃん (突然ボケる) あ？何ば言いよるとね爺さん。そがんこと急に言われてん…、ああ、そこは便所じゃなかって…、もー爺さん…。

トラヲ そーとーよか根性しとるんけね。

みんな ああ…。

ネフミ 2人ともさ、別れよ。

アサヨ いや。

ネフミ このままやったら道隆さんが可哀相やつかね、ねえ、お願い、別れてー。

婆ちゃん ひどか話たい。

アサヨ ひどかとは婆ちゃんやろもん！

婆ちゃん (ボケる) なんね爺さん、また出てきたとね…、んん？

みんな もう！

ミナヲ 別れよつか。

ネフミ ホント？

アサヨ 駄目！

ミナヲ (こそこそしゃべりで) 取りあえず婆ちゃんの気の済むごと別れとこーや。

トラヲ うん、それがよかつじゃない？

アサヨ いや！

みんな 何でえ。

アサヨ 確かに人命は大切かも知れんけど、テロリズムには断固とした態度で臨まにやいけんよ！

みんな んな、大袈裟な！

アサヨ ミナヲちゃん、ここで負けたらあたしたち終わりよ！

ミナヲ ええ…。

ネフミ こいはさ、アサヨちゃん、勝ち負けじゃなかつけど。

アサヨ 勝ち負けて！

スゲヲ登場。

スゲヲ おつかん出てきたて？

ネフミ・アサヨ スゲおいちゃん

ミナヲ よかところ来た。

スゲヲ どがんとしたとか？

トラヲ 母さんが道隆さんば人質にとつとつとたい！

アサヨ テロよテロ！

スゲヲ なんなそら、何ば言いよるとか。

ネフミ あんね、アサヨちゃんとミナヲちゃんの結婚式ばしよつたと。

スゲヲ はあ？

トラヲ まあまあ、最後まで。

スゲヲ そら、どがんことね！

ネフミ 2人は付き合ひよつたとさ。

スゲヲ ええー？

トラヲ 最後まで聞かんね！

ネフミ そいで、婆ちゃんの出でくるごとで、偽装結婚式ばしよつたとさ。

スゲヲ それで…、出てきたとね！

ネフミ うん！

スゲヲ で、どっけおつとか？

ネフミ そいが…うっ（泣き崩れる）。

スゲヲ 何か何か、どがんとしたとか。

ネフミ 道隆さんの中に、入とつとつとー（泣く）あーん。

スゲヲ おお、よーし、ついに来たかー！

それまで婆ちゃんだった道隆が、元に戻ったように…見える。
*以降、婆ちゃんを「道隆（婆）」と表記する。

道隆（婆） そんなことないですよ。

みんな え？

道隆（婆）の言葉はたどたどしい標準語だ。

道隆（婆）何を言っているのですか？

アサヨ どーなつとつと？

ミナヲ 抜けたとやるか。

ネフミ 道隆さん？

道隆（婆）何だい？

みんな ……。

スゲヲ どがんなつとるとか。

トラヲ まだ中におつ。

みんな え？

トラヲ 道隆さんは操つとる！

みんな ええー！

道隆（婆）そんなことないです。

スゲヲ 得な事もないです。

ミナヲ 何ば言いよつとね、こがんと時に。

トラヲ しっ（黙れ）。

道隆（婆） え、何ですか？

トラヲ 「そんなこと」が「損な事」っていう…。

道隆（婆） ああ！

トラヲ 「損な事ないです」「得な事もないです」

道隆（婆） あーっはっはっは！うまい事言いますねえ。

みんな ……。

ネフミ やっぱり道隆さんじゃなかー（泣）

道隆（婆） 何をいつているんだいネフミ、僕だよ。

ネフミ うえーん。

スゲヲ おつかん、今んダジャレはね、さつき道隆くんに言うたばかりやつたつたい。

トラヲ 道隆さんなら当然覚えとるはずたい。

道隆（婆） …すっかり忘れてました。

ネフミ まだ、しらば切つとね！

道隆（婆） うわっ！もう、ごつか恐しかー

みんな あ！

ミナヲ 棒ヶ削弁になつとる！

道隆（婆） これ、でも、少しは勉強したのさ。

ネフミ 嘘ばっかり！

アサヨ 今んともイントネーションのおかしかった。

道隆（婆） そがん言うてん。

みんな そがん？

道隆（婆）（ボケる）なんな爺さん、また出てきたとね…。

みんな ごまかすな！

道隆（婆）、婆ちゃんに戻る。

婆ちゃん スゲヲ！こん子達、うちばいじめるとよ！

ミナヲ な！

スゲヲ (ミナヲを制して) ああ、そうね、そらつまらんねえ。

婆ちゃん もう、悲しかー。

スゲヲ そんなで、どがんしたとね。

婆ちゃん あんね、前にね、ミナヲとアサヨがこん上ん部屋でいちやついとつたつき。

スゲヲ ほおー(2人を見る)。

婆ちゃん そんな時は叱りとばしてやったったい。

スゲヲ ふーん、あそうね。

婆ちゃん そしたらミナヲに殺されたとよ。

スゲヲ は？

ミナヲ おいのやったアメ玉ば、喉に詰まらせて死んだて。

スゲヲ おお、あいは、わいのアメ玉やったつか。

ミナヲ え。

スゲヲ いやまあ、アメ玉が直接の原因じゃなけんねえ。

婆ちゃん そいで、2人んことがえろう気になんなあて思いよったったい。したら、こん2人、結婚式しよる！

ネフミ だけん、あれは偽装結婚式で言いよるやるもん。

婆ちゃん 結婚は嘘でん、別るっつもりはなかとやる？

2人、下を向く。

スゲヲ アサちゃん。

アサヨ …はいい。

スゲヲ ミナヲは…やめとった方がよかよ。

ミナヲ ちよお…。

スゲヲ こいは最低のグウタラ男やけん。

ミナヲ 何ば言うとね。

アサヨ そいは、知ってます。

スゲヲ そしたら何でね。

アサヨ 何で…ですかねえ。

スゲヲ おつかん、アサヨちゃんはこがん言いよるけど、どうやるか？

婆ちゃん 何でんよかけど、イトコ同士はマズかる。

スゲヲ 何で、何がマズかとね。

婆ちゃん ー、スゲヲはどがん思う？

スゲヲ まあ、もし兄弟とかやったらマズかて思うやるけど、イトコやけんねえ、法律でも問題なかし。

ミナヲ ーら問題なかない。

スゲヲ それより、ミナヲにアサちゃんはもつたいなかて思う。

ミナヲ え。

スゲヲ 問題はわい自身にあるとやけん。

ミナヲ おいはノープロブレムやもんば。

トラヲ バーカ。

アサヨ スゲおいちゃん、婆ちゃん、イトコ同士やったら、恥ずかしかて言うとよ。

スゲヲ 恥ずかしかて…ははっ、おつかん何ば言いよつとね(皆に)爺ちゃ

んと婆ちゃんはイトコ同士やったったい。

ええ？

みんな 嘘やろ！

トラヲ

スゲヲ あ？わいは知らんやったか？

トラヲ 知らんよ。

スゲヲ 何で知らんとか。

トラヲ こっちが聞きたか。

スゲヲ ま、あんまり大っぴらにはしとらんやったけど…。

婆ちゃん 恥ずかしかったたい。

みんな え…。

スゲヲ 恥ずかしいっていうたつちや…。

婆ちゃん お前んとこにウキサが生まれた時、ウキサがウオコ病で言われたやろ。

スゲヲ ああ…。

ミナヲ ウオコ病つて。

トラヲ そがん言葉もうほとんど使わんけんね。

ネフミ 魚の子に戻る、つまり先祖帰りするっていう意味のあつとよ。

アサヨ そい病気ね？

スゲヲ 昔は病気で思いよつたらしかとばつてん、そんなうち兄弟や親子で子供作ったりするトコにウオコの多かて言われることなつて、そ

がんとが良うなかて言うて、法律で禁止されたつたい。

婆ちゃん 禁止されてん、棒ヶ削では結構ありよつたつさ。

ミナヲ …ウチは。

婆ちゃん そいで、ウキサが何かおかしかて分かつた時、麦山ん家は乱れとるとか、いろいろ言われたとよ。うちんトコがイトコ同士やつたとが本当は兄弟じゃなかつたか、ほんとはウチん爺さんの子どもじゃなかつたか、いろいろ…。

ミナヲ そがんと、知らんやつた。

スゲヲ わいはまだ生まれとらんやつたし、トラヲやネフミちゃんもまだ小さかつたけんね。

婆ちゃん そがんことのあつたけん、良くなかて思うたとよ、うちんコトんごと恥かしかて思うたとよ

みんな ……。

ミナヲ 婆ちゃんの言いたかことは、よう分かつたけん。でん、おいはまだ正直言うて、結婚とか子どもとか、あんまり考えとらんとよ。

ネフミ アサヨちゃんは少しは考えとつとよ。

アサヨ ……。

ミナヲ うん…。

婆ちゃん ……。

カズクン、婆ちゃんに擦り寄る。

カズクン 婆ちゃん、戻つてきたの？

婆ちゃん そーよー。

ウキサ 婆ちゃん。

婆ちゃん 何ねウキサ、何ね。

ウキサ あたし、分かつたど。

婆ちゃん 何が？

ウキサ んふふ…何がが。

婆ちゃん そら良かった。

ウキサ・カズクン ねー。

婆ちゃん、カズクンを撫でる。

スゲヲ おつ母^かん、2人^{ふたり}とも、まだ世界が見えとらんとよ。だけん、おいが言うても聞かんし、おつ母^かんが言うても聞かんしとよ。

婆ちゃん 言われんでも分かつとる。でも何か悔^くしゆうはなかんね。

スゲヲ それはおいもそうやけど、どうしようもなかつたことは、分つてやるしかなかやろーもん。

婆ちゃん そいも分つとるけど。

スゲヲ おつ母^かんは、もう死んだとよ。暖^{あつた}こー見守つてくれんね。

婆ちゃん カズクン。

カズクン むふふ…。

トラヲ 母さん、ちゃんと聞いとつとね。

婆ちゃん うん、そいもよう分かつとる。

スゲヲ そしたら…。

皆、立ち上がりかけるが。

婆ちゃん ばってん、本当やるか。

スゲヲ え？

婆ちゃん うちは本当に死んだとやるか。

みんな ……。

トラヲ あれやったら、見てみる？

婆ちゃん (うん)

トラヲ、皆の顔を見て、棺桶の小窓に近づく。
そして、スゲヲを見てから。

トラヲ それでは、ご開帳です。

トラヲ、棺桶の小窓を開ける。

覗き込む婆ちゃん。
それを見守る皆。

婆ちゃん うん、死んだ。…あはははっ。

みんな なん？

婆ちゃん 何で額に、こがん三角の付けるとかねえ、ごつかおかしか。

アサヨ あ、やっぱそれおかしかやる？

カズクン あははははー

ネフミ、覗き込む。

ネフミ あはははははー、かわいい。

トラヲ そーとおかしかやる。

ネフミ うん。

ミナヲ 最初見たとき、かなり笑いこらえたもん。

アサヨ あたしも。

ネフミ あははははは…。

スゲヲ あんまり笑うなて。

婆ちゃん よかるもん、うちも笑た^{わろ}とやつけん。

スゲヲ ああ、そうか。

婆ちゃん あんたも笑わんね。

スゲヲ え？

婆ちゃん ほら、大きか声で！

スゲヲ …あはははははは(何だか固い笑い)。

皆、その固まった笑いに爆笑。

婆ちゃん 何ねそれ。

スゲヲ 笑えて言うて、すぐに笑えるもんか。

婆ちゃん つまらんダジャレは言うくせに。

トラヲ 得なこともないです。

みんな あははは…。

スゲヲ つまらんでなんか、つまらんで！

ウキサ つまらん！

スゲヲ なんて！

ネフミ つまらんよネー。

ウキサ ネー。

婆ちゃん あ。

みんな なん？

婆ちゃん 何で「マコちゃんの」カーテンかけとつとね。

ミナヲ そいはアサちゃんが。

アサヨ 婆ちゃん好きやったし。

婆ちゃん ばってんあんたたち、マコちゃんの物真似へたかねー。

みんな え！

ミナヲ 聞いたとつたと？

婆ちゃん あがんとで間違えて出てくる訳なかなるもん。

ミナヲ マジか。

みんな あははは…。

トラヲ (スゲヲに) さっきね、母さんが出てくること、マコちゃんの物真似しよつたつき。

ミナヲ 「父ちゃんもせなつまらんでちゅよ」

スゲヲ するか！

アサヨ 「ですかでちゅー」

みんな あははは…。

婆ちゃん そんなら、うち、もう行くけん。

みんな え。

婆ちゃん 道隆さんよろしゅ言うとして。

ネフミ うん。

婆ちゃん ウキサちゃん、カズクンのことお願いね。

ウキサ うん。

婆ちゃん カズクン。

カズクン ん？

婆ちゃん 皆のこと、頼んだけんね。

カズクン うん。

ミナヲ そがんなつとつと？

ウキサ そらそうよ。

婆ちゃん そしたら皆さん、お騒がせしました。ありがとう。

婆ちゃん(道隆)、棺桶の上に倒れ込む。

みんな 婆ちゃん。

スゲヲ おっかん。

皆、小窓の中を覗き込む。

トラヲ うん、入った。

ミナヲ あ！笑った！

みんな え？

スゲヲ 嘘つけ。

ミナヲ (他の人に) 今、見たよねえ。

アサヨ 笑つとらんよ。

ネフミ うん。

トラヲ 見とらん。

ウキサ 見とらん。

ネフミ あんただけやかね。

和くん、登場。

和くん あんの、準備出来たそうですばってん…。

トラヲ お、すまんね。

和くん どがん？

ミナヲ こつちも今…。

スゲヲ すまんけど、今度、お宮さんの方に行つて、渡船の人にすぐ行く

て言うてきてくれんね。

和くん ああ、よかですよ。

ミナヲ すまんね。

和くん んなるー。

和くん、去る。
道隆、起きる。

道隆 あ、あいたたた…。

ネフミ 道隆さん！

道隆 あれ？

ネフミ 大丈夫？

道隆 うん…、さつきね、お婆さんがね、居たよ。

ネフミ 居たって？

道隆 僕の中に（倒れそうになって）。

みんな ああ！

道隆 すいません。

トラヲ 大丈夫ですか？

道隆 はい（立ちながら）もう、大丈夫です。

ネフミ 婆ちゃんがよろしくて。

道隆 僕に？

ネフミ うん。

スゲヲ じゃあ、行こうか。

トラヲ うん。

スゲヲ ミナヲ。

ミナヲ あ、はい。

ミナヲ、棺桶の上を片づける。続けて他の人も。

道隆 お宮さんへ…。

スゲヲ はい、それから、おくり島へ。

道隆 海へ。

トラヲ はい、返すとですよ。

道隆 ……。

スゲヲ よし、持つぞ。

ミナヲ はい。

スゲヲ せーのっ。

棺桶が持ち上がる。

ウキサ カズクンは？

カズクン わし、ここにおるよ。

ネフミ カズクンは留守番よねー（と撫でる）。

スゲヲ トラヲ、先行け。

トラヲ うん。

ウキサ さいなら、カズクン。

カズクン うん、さいなら。さいなら、婆ちゃん。

外から、祀りの音が聞こえてくる。
皆、その音の方向を見る。

みんな ……。

スゲヲ 前に向き直って。

スゲヲ よし。

ウキサ、棒ヶ削の子守歌を歌う。
祀りの音と子守歌におくられて、トラヲ、棺桶を持ったスゲヲとミナヲ、

アサヨ、ネフミ、道隆、ウキサの順で退場。

全員が退場すると、彼らを見守っていたカズクンが部屋の中央で寝る。

ジョニイ、ヒロポン、ナガサ坊が現れる。

ナガサ坊のみ、そろりとカズクンに近づく。
ナガサ坊、カズクンの頭に触れ…、「あれ？」という表情をして、ジョニイを

呼ぶ。ジョニイはカズクンに近づき「起きて」と呼ぶ。それを見たヒロポンも

カズクンに近づく。
ジョニイ、ヒロポン、ナガサ坊はそれぞれの鳴き声でカズクンに話しかける。

カズクンはまだ起きてこない。
ゆっくりと闇がやってくる。

おしまい



『生態系カズクン』2017年改訂版

著者 泊 篤志

発行 飛ぶ劇場

info@tobugeki.com

※上演希望の際は必ず上記へお問い合わせ下さい。